

# ゆらあい

No.268

2021.6.29

LIONS CLUBS INTERNATIONAL  
DISTRICT 335-B  
OFFICIAL PUBLICATION

ライオンズクラブ国際協会335-B地区広報誌



日本の原風景[夏]



発行者：地区ガバナー 中谷 豊重 335-B地区MC・IT委員会

編集者：委員長／松本 直樹

委員／浦井 雅子・丹羽 東・江端 宏哲・嶋谷 優香・黒木 伸治・樋本 祐一

宮本 佳彦・角 竜一・花田 実・田淵 稔・田中 光栄・蒔田 浩二

事務局：〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-4-8 瓦町4丁目ビル2F

TEL：06-6222-7331 FAX:06-6222-7336

ホームページ：http://www.lc335b.gr.jp/

2020～2021 335-B地区 地区ガバナー スローガン

おもいを伝え 新しい扉をひらこう

～クラブは主人公～

地区ガバナー 中谷 豊重



## 1年を振り返って

地区ガバナー 中谷 豊重

当地区において多大な貢献をされた亀井良次元国際理事がご逝去されました。さらに、中野進元地区ガバナー、寺田茂治元地区ガバナーがご逝去されました。あらためて、地区運営にご尽力されたことに対する感謝と、謹んで哀悼の意を表す次第です。

さて、昨年7月1日に335-B地区ガバナーに就任させて頂き、早いもので1年の任期が満了しました。振り返れば、新型コロナ禍が全世界に猛威を振り、ライオンズのみならず、あらゆる社会経済活動が制限され、戦後、初めてと思われる危機的な状況でした。

地区運営においても、地区ガバナー公式訪問はかろうじて訪問することができましたが、その後は、緊急事態宣言をはじめとして自粛を余儀なくされました。各クラブにおいても例会の中止等、クラブ運営は困難を極めたものと思われまます。

しかし、この自粛の間、各クラブの例会・理事会等は、インターネット情報通信を利用して開催する等、様々な工夫をしてクラブ運営をされてきました。これにより、多くのメンバーがパソコン、スマートフォン等は必須のツールであることを改めて認識され、身近なものとなったのではないのでしょうか。

この情報通信の普及をはじめとして、本年度は、新しい時代・新しい社会に移り変わっていく、まさにその転換の年でありました。J. チョイ国際会長が言われた「記憶に残る節目の年」であったと思います。

ライオンズも、この時代の転換に遅れないよう、従来の考えにとらわれない新しい発想をもって、アクティビティに取り組み、新しい時代のライオンズを創造する必要があります。

新しい時代のメンバーを招請し、新しい時代のアクティビティに取り組み、これを地域社会に伝える。地域社会から賛同を得てメンバーが増強する。このサイクルを確立していく必要があります。

このサイクルの中心にあるのはクラブであり、クラブを支えるのはメンバーなのです。

「クラブは主人公」となって新しい時代のライオンズを創造するために、メンバー一人一人のおもいをクラブに!あるいは地域社会に!伝えていって頂ければと考えています。

最後に、この1年間、新型コロナ禍の中、地区運営にご尽力頂いたメンバーの皆様へ感謝し、挨拶とさせていただきます。

## キャビネット幹事 藤田 嘉宣



あっという間に1年が終わってしまいました。

コロナ禍の中、いかに元気に活動して頂けるかということに心がけ、各会議やイベントに参加してきました。地区ガバナー公式訪問では様々な会議の中で、大変失礼な発言も多々あったかと思いますが、何かと難しい会議であるが故に、笑顔でリラックスして頂き、自由に発言をして頂きたいと思いながら、司会をさせて頂きました。地区の皆様とじかに触れ合うことができ、思い出深いものとなっています。

会議に行けば、多少楽しいし、少し笑えるから出席しようなんて思って貰っていたなら、最高にうれしいです。

お世話になりました各役員、委員の皆様、335-B地区の各クラブ会長・幹事・メンバーの皆様、1年間本当にありがとうございました。楽しい1年を過ごさせて頂きました。感謝いたします。

## キャビネット会計 秦 大地郎



335-B地区の皆様、1年間ありがとうございました。

今年度は本当にコロナ禍に悩まされた1年となりました。予定を組み、企画をし、いざ本番というときに中止。こんな繰返しでした。各クラブの皆様におかれましても、同じような、むしろそれ以上のご苦労をされたかと拝察致します。

1年間のおもいをもち、スタートしたものが急停止となり、悔しい思いでいっぱいとなりました。しかし、急停止した今年でしか出来ないことをしようと方向転換をし、また前へ進もうとされる皆様のおもいを地区ガバナー公式訪問で拝見させて頂き、私たちもまた一歩前進することができました。

最後になりますが、各委員会の皆様、キャビネット委員の皆様お世話になりました。8Rの皆様、本当にお世話になりました。

近い将来、このコロナ禍が明け、気兼ねなく皆様にお会いできる日が来ると信じています。

『おもいは伝わる 新しい扉は必ず開く』 本当にありがとうございました。



地区ガバナーエレクト 正岡 章

第67回年次大会代議員投票におきまして、地区ガバナーへのご信任を頂き誠にありがとうございました。

感染防止対策の都合上通信による開催となり、皆様とお会いすることが出来なかったことは残念でなりません。

次年度は「KAIZEN」～未来を拓く～という地区ガバナースローガンを掲げ、これまで以上に地区発展へ向けての改善に取り組んで参ります。

KAIZENの先にある希望は「楽しさ」であり「我々が行っていることには意義があり」「誰かの役に立っているという実感」をより感じて頂くことです。このために会員満足度向上という側面から様々な分析を行い提案・支援を実行致します。

会員増強においてもメンバー自身がどんどん人を誘いたくなるようなクラブ作りのために、地区はその助力となるべく全力を尽くすことが使命だと考えております。

335-B地区全ての皆様と共に考え行動して参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 次期第1副地区ガバナー 津田 勝之



はじめに、新型コロナウイルスに罹患された皆様やご家族の方々、そしてお仕事に多大な影響を受けている皆様方にお見舞い申し上げます。

この度は、次期第1副地区ガバナーの代議員信任投票におきまして、メンバーの皆様方にご信任頂いたこと、心より感謝するとともに緊張と責務の重さに、私はもとより所属クラブである大阪桜之宮ライオンズクラブメンバー一同、気の引き締まる思いです。

度重なる緊急事態宣言が発令され、今まで通りのクラブ理事会や例会そしてアクティビティも開催できない状況の中においても、創意工夫をしてメンバーとの情報交換や例会、会議などが行われてる事を知り、急速な変化への対応力に力づけられ、今後のライオンズクラブ活動の変化、変革にリーダーとしての対応力、実行力が必須であると改めて感じ得ました。

日本の準地区において名実とも日本一の335-B地区を作り上げて頂いた先人、先輩ライオンズの方々に感謝し、伝統を守り温故知新の精神で時代に即応したライオンズクラブが作れるよう正岡地区ガバナーを補佐し、第2副地区ガバナー、キャビネット構成員の皆様とともに協力し尽力していく所存です。

新しくパイロットプログラムとして取り入れるGMAプログラムを深く理解し、ファシリテーターの一員として、この335-B地区の新しい時代のライオンズクラブのエクステンションやライオンズメンバーの増強に尽力してまいります。

ライオンズクラブメンバーはそれぞれが年齢、立場、地域、考えなど違いがあります。その違いにより意見が衝突し合うこともあると思いますが、お互いを尊重し合い、認め合う相互理解の心、批判もするが協力もするデモクラシーの精神があるからこそ、みんな楽しく仲良く汗を流し奉仕活動ができると信じています。まだまだ若輩者ですがよろしくごお願い申し上げます。We Serve

## 次期第2副地区ガバナー 西尾 良典



はじめに、第67回地区年次大会代議員投票におきましては、皆様方より次期第2副地区ガバナーのご信任を頂き深く感謝いたします。またその責務の重さに所属クラブのメンバーと共に改めて身の引き締まる思いであります。

さて、新型コロナウイルスの猛威は衰えず、今もなおその影響は多大です。罹患された方々やご家族、仕事に影響を受けられた皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

しかし、そんな環境の中にも関わらず工夫を重ね活動している各クラブや地区のリーダーを拝見し、かつて先輩方が多くの困難を乗り越えたように、きっと明るい未来が訪れるものと確信しております。

今後は日本一を誇る335-B地区を築いてこられた先人の恩恵に感謝し、その伝統を守り、時勢を見つめ、社会環境や価値観の変化に対応した地区運営が図れるよう、地区ガバナーエレクト、次期第1副地区ガバナーを支え、次期キャビネット構成員の皆様とともに協力し尽力していく所存です。至らぬ点多々あるかと存じますがご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

# 第67回地区年次大会

第1部

## 式典

開催日 2021年6月25日(金) 会場 NHK大阪ホール

地区ガバナー 中谷 豊重

第67回ライオンズクラブ国際協会335-B地区年次大会を、第1部として6月25日(金)NHK大阪ホールにて、第2部として6月29日(火)リーガロイヤルホテル大阪において開催させて頂きましたところ、メンバー各位の多大なるご支援とご協力、ご理解を賜り滞りなく挙行することができました。ここに、あらためて衷心より感謝申し上げます。

当初、4月25日を開催予定としていましたが、この日から新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態措置が要請され、やむなく延期とさせて頂きました。

会場の変更、たび重なる日程変更にご理解、ご協力頂いた関係各位には、本当に感謝申し上げます。

特に、第1部の記念アトラクションの岸和田市内の和泉高校、市立産業高校、久米田高校3高校による素晴らしいダンスパフォーマンスと久米田高校太鼓部による太鼓パフォーマンス、ほんとうに感激しました。そして、元気をもらいました。

また、第2部では、建築家 安藤忠雄先生にご多忙の中お越し頂き、浪花の人らしい、ユーモアあふれた、素晴らしいご講演を頂きました。そして、安藤先生には、日本ライオンズ大学校の名誉講師になって頂いております。

今年度の集大成が年次大会であります。「クラブが主人公」となり、おもいをもったアクティビティ、そして素晴らしい成果、クラブのおもいを市民、地域社会に伝える。ことによりきつと新しい扉を開くことができる。と確信し、この1年間ご支援、ご協力頂いたすべてのライオンに感謝申し上げます。



# 第67回地区年次大会

第1部

## 記念アトラクション 《～夢、未来、明日へ～》



大阪府立和泉高等学校 ダンス部  
 大阪府立久米田高等学校 ダンス部  
 岸和田市立産業高等学校 ダンス部  
 大阪府立久米田高等学校 太鼓部

# 第67回地区年次大会

第2部

## 記念講演会・懇親会

開催日 2021年6月29日(火) 会場 リーガロイヤルホテル 3F 光琳の間

MC・IT委員長 松本 直樹

6月29日(火)地区年次大会第2部記念講演として、建築家 安藤忠雄氏にご講演頂きました。細心の感染予防対策の中、500人ほどが参加され、笑いと拍手のうちに幕を閉じた。

建築家 安藤忠雄氏については、皆さん周知の通り。大阪が誇る世界的著名な建築家である。世界的建築家であるが、親しみやすい、ユーモアと獨創性があり、飾りっ気がない。そして、歯に衣着せぬ毒舌家。この気質はライオンズクラブのメンバー達にも通じるのではないかと(笑)。安藤氏は毒舌家だけではなく、気概があり、行動も早い。何よりもよく考えている。

安藤氏は1941年9月13日生まれ、まだまだ精力的に活動を続けている。それは常に挑戦といっても良い。スライドを見てもそう思う。もはや建築家としてのフィールドを超えている。国をあげて、あるいは国を超えてのプロジェクトリーダーの役割が多い。モノ言う建築家であり、考える人である。そのベースには奉仕の気持ちも随所に垣間見られる、社会活動家なのである。

昨今の主な活動のごく一部であるが

- ・大阪関西万博までに2025本の桜を府内に植樹する「万博の桜2025」実行委員長に就任
- ・桜之宮公園から中之島公園を結ぶルートに桜を植樹する運動を提唱
- ・東日本大震災で親を亡くした子供達のために「桃・柿育英会」を発足、寄付で支援を募る
- ・大阪市中之島に「こども本の森 中之島」を設計、建設、大阪財界に寄付を募る
- ・東京湾の埋立地に植樹する「海の森」プロジェクト
- ・積水ハウスの「緑の壁」プロジェクト、マルピルの緑化プロジェクト
- ・ベネッセアートサイト直島のベネッセハウスの構想



この活動を見ても、もはや建築家の枠を超えている。はみ出ている。誰にでもモノが言える。そして誰もが納得し、賛同する。金の力でもなく、もちろん脅迫でもない。しっかりと当たり前のことをわかりやすく伝えて、説得力がある。世界的に著名なのは言葉を超越する「生きる力」と「考え方」があるのであろう。大阪が誇るおっさんである。

あらためて、ライオンズクラブの年次大会第2部にふさわしい、講演会であった。我々は安藤氏にはなれないが、今、できることはたくさんある。「考え方」を真似ることはできる。元気を出して、壁を作らず、気概を持って吠えていこう。



# 第46回物故ライオンズ慰霊祭



5月23日(日)午後1時30分より、第46回物故ライオンズ慰霊祭を若葉かおる高野山大霊園の物故ライオンズ慰霊碑において執り行いました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご遺族ならびにメンバーの皆様に参加して頂くのは難しいということから、城阪勝喜国際理事会アポイント、中谷豊重地区ガバナー、田中敏朗前地区ガバナー・名誉顧問会議長をはじめとする37名のメンバーにご臨席頂き、昨年度の物故者81名と今年度の物故者84名の合わせて165名の皆様に深い哀悼の意を捧げました。

物故ライオンズ慰霊祭は、初夏の香りを感じさせる快晴のもと、慰霊委員長の「祭式の詞」、地区ガバナー・前地区ガバナー・慰霊委員長・前年度慰霊委員長による「代表拝礼」、キャビネット会計・前年度キャビネット会計による「物故ライオンズ名奉読」、地区ガバナー・前地区ガバナーによる「刻銘版奉納」と厳かに進み、地区ガバナー・前地区ガバナー・慰霊委員長・前年度慰霊委員長による「代表献花」、地区ガバナーの「慰霊の詞」、参加者各位の「献花」をもって慰霊祭は終了しました。

なお、当日は参列頂けなかったご遺族並びにメンバーの皆様にも、慰霊祭の様様をご覧頂くために「LIVE配信」を初めての試みとして行いました。1976年8月に第1回物故ライオンズ慰霊祭を挙げて以来、46回という回数を重ね、その間に5,760名の尊い御霊をお祀りしており、物故ライオンズ慰霊祭はわたくしたち335-B地区の誇りでもあります。

次年度の第47回物故ライオンズ慰霊祭はコロナ禍の心配のない中で、ご遺族はじめ多くのメンバーの皆様に参加頂き挙行されることを心から念じる次第です。

ライオンズ慰霊委員長 太田 勉



# 第 67 回地区年次大会 地区ガバナー表彰を受賞されたアクティビティの紹介

## 河内長野LC 「プログラミングで海のSDGs！」



昨年 8 月 9 日 (日) に河内長野LCは、CN55周年事業として、複合的教育イベント「プログラミングで海のSDGs！」を、(一社) イエローピンプロジェクトとの共催で、開催致しました。

日本財団の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した本イベントは、SDGsの開発目標「海の豊かさを守ろう」をテーマとし、大阪商業大学の原田先生による講演「未来のために知っておきたい、海と川とプラスチックの話」と、日本の小学校で必修となった「プログラミング」の体験教室をコラボした複合的教育事業として、地域の小学生とその保護者を対象に企画致しました。

コロナ状況下で、またあまり事例のない先進的な取り組みで、人が集まるか不安もありましたが、抽選を実施するほど多くの申込みを頂き、講演会と5回のワークショップで、のべ約140人の方々に参加頂き、好評を得て終えることができました。



## 大阪ゆとりLC 「大阪府重症心身障害児・者を支える会のオンラインクリスマス会」

年に2回、春のチャリティーゴルフコンペと、クリスマスパーティーにて「大阪府重症心身障害児・者を支える会」を支援させて頂いております。

コロナ禍によりゴルフは中止となりましたが、毎年楽しみにして下さっているクリスマスパーティーはぜひ開催したい、という思いから、安全安心のオンラインで実施する事に致しました。

支える会の皆様は、施設の別のフロアやご自宅から。大阪ゆとりメンバーは数名のみ施設へ、他はリモート参加。毎年恒例のギターライブや、ピアノ、バイオリン演奏に、最後の抽選会も今年も大いに盛り上がりました。支える会の皆さまのご準備・ご協力があって、無事、思い出に残る素敵なクリスマスパーティーとなったと思います。

「日頃外出するのが厳しい方も交流できたことで、これからの繋がり方の新しいスタイルを見つける事ができた」と、支える会の方々が大変お喜び下さったのが、また我々の喜びにもなりました。コロナ禍だからこそこの経験でした。



## 大阪ヴァイオレットLC 「献血活動」



夏、冬の血液不足時に対応出来るように、献血の手伝いをやっております。最近、南の大丸の御堂筋側に新しく出来た献血センターの内部は非常に設備が良く、我々も献血に来られた方も楽になりました。

私達は献血センターの前で看板を掛け、ティッシュ配り、笑顔と共に高齢の人には帰ったらお孫さんによるしくと、知り合いの人には携帯電話で前もって依頼もしています。若いターゲットになる通行人は我々を避けて行く人が多いのが悩みです。

クラブメンバーで参加の日を決めて頑張っています。暑い日も寒い日も雨や風にも負けず、多くのメンバーの努力と協力によって、この献血奉仕活動は続けられています。

## 能勢LC 「クリーンアップ活動」

昨年1月、初めて耳にした新型コロナウイルス感染症。その名が世界中の経済・医療に大きなダメージを与え、みんながそれぞれの暮らしに疲弊する中、ライオンズクラブの活動に於いても「今出来る奉仕活動とは？」を考えさせられた年であったと思います。

当クラブが5年前から毎年12月に行っているアクティビティ「クリーンアップキャンペーン」は、安全に配慮しながら国道沿線の清掃活動を行う事で、微力ながら町内美化に貢献できればと考えるものです。

今年は真冬の寒さの中、集合時間を前に次々にクラブジャンパーと帽子にマスク着用のメンバーが参集し、クラブ会長の力強い挨拶と注意事項を拝聴し、啓蒙収集車両と一緒に決められた班に分かれて作業に向かって行きました。単調な作業の中でも時々どこからか笑い声も聞こえ、安全を確認しながらもそれぞれがライオンズスピリットを発揮し、充実した時間を共有することが出来ました。



## 摂津LC 「骨髄バンクドナー登録説明員の多方面の活動」

2年半前、登録していた骨髄バンクよりドナーに選ばれ、見ず知らずの方に『骨髄提供』をさせて頂きました。その過程で骨髄移植を望んでおられる患者さんに対し、ドナー登録者は全く足りていないことを知り、自分の体験を伝えることで登録者数を増やすことができないかと考えるようになりました。そんなとき、私共、摂津LCでの献血・骨髄バンクドナー登録会を開催した際に、『骨髄バンク説明員』という役割があることを知り、早速、その資格を取得し活動することになりました。

活動内容としては、献血・骨髄バンクドナー登録会を併行して行う会場に出向き、献血受付された方に対しドナー登録を呼び掛け、希望者にドナー登録の仕方やドナーに選ばれた際の流れ、骨髄提供の仕方などを説明し、ドナー登録の手続きまで行います。この活動は、資格を得てから毎月1回以上、これまで20回を超え、他のライオンズクラブ主催の会場に出向くこともしばしばあります。



## 堺フェニックスLC 「堺工科高校定時制の課程 献血セミナー」



我々、堺フェニックスLCは昨年より「定時制高校の学生達に給食を楽しんでもらおう」という主旨でアクティビティに取り組んでいます。第1回目は、食の大切さを給食を通じて学生達に知ってもらい、第2回目はさらに健康の大切さ、命の大切さを伝えたく、献血に焦点をあてました。

2021年1月、昨年に引き続き、定時制高校での2度目のアクティビティ。真冬の夜の校舎はひんやりとしたコンクリートで覆われて無機質な空気が漂っている。でもそこに学生達が現れるとたちまち躍動感溢れるエネルギーが満ちてくる。

私はこの瞬間がとても好きだ。学生達の中には私が忘れかけている、純粋で巨大な喜怒哀楽が詰まっている。

講演は、赤十字献血センターの方のお話から、実際に小児がんで7歳の息子さんを亡くされた光武さんの当時のドキュメンタリー映像へと続く。そして光武さんご自身の言葉で当時を振り返り、今を語られた。講演後の学生達は『感動した、涙が止まらなかった』『自分もこれからは献血しようと思う』『すごく良い話しが聞けた、ありがとう』と、私たちに伝えてくれた。普段彼らの身を守っている鎧の隙間から、素直な優しさが溢れ出ていた。こちらこそ『心に残るアクティビティをさせて頂きありがとうございます。また来させてくださいね。』

## 和歌山西LC 「卒業記念作品制作 陶芸体験」

和歌山西LCは、小学6年生児童を対象に「自分の力で挑戦する」をテーマに体験型の思い出に残るアクティビティとして陶芸体験を行いました。

生徒たちは焼き物が出来るまでの工程や焼き物を作っている成分について学習した後、様々な創意工夫を凝らしながら土からマグカップ作りを体験し、卒業記念作品を制作しました。成形したマグカップは、約1カ月間陶芸工房にて乾燥させた後に焼き上げ、会長賞やアイデア賞など多角的な視点で選抜し、3月9日に小学校にて表彰式を行いました。

このアクティビティは、当クラブ50周年記念事業として開催して以来、継続アクティビティとして実施しており、今年度で9回目の開催となっております。9年前に一緒に制作した児童は成人式を迎え、現在も記念の品として大事にしているという声が聞こえてきて、大変うれしく思っております。



## 田辺LC 「落語で紀南を元気に笑らよ」



アクティビティ賞の授与誠にありがとうございます。

昨年春から長く続きます新型コロナウイルス感染症により、我々紀南地方でも大変な状況になっております。私が会長に就任した時期は、第1回目の緊急事態宣言が解除された少し後でした。イベントなども全く行われない状況で、紀南の地方を少しでも元気づけたいという思いから、地域を元気づけるには落語会がいいのではないかと結論になり、大阪に有ります天満天神繁盛亭に見学に行きました。感染対策も取られており、これなら田辺地方でも出来るかもしれないという事で、繁盛亭の支配人さんを頼り、実施にこぎつけました。

1,200席ある紀南文化会館に300名あまりの観客に来て頂き盛大にとはいきませんが何とか成功したと言えます。

売上収益金は、紀南地方のコロナ担当病院になっています紀南病院の玄関入口に自動手指消毒器を設置致しました。

# リジョン・チェアパーソンご報告 — コロナ禍の1年で気付いたこと、次年度へのアドバイス —

## 1RRC 内田 陽子



皆様のご協力のお陰でゾーン再編ができ、只々感謝の思いでいっぱいです。過日、RC経験者達が集まり、次年度からのRC・ZCの皆様の相談窓口になれるようなサポート委員会を立ち上げました。新ゾーンの新しいスタートを見守りたいと思います。

コロナ禍で恒例のリジョン合同アクティビティや合同献血が出来なかったのは心残りですが、次年度からRC・ZCを中心に復活して下さるのを期待します。

## 2RRC 北野 英治



今年度はコロナの影響で、当初思っていた計画がほぼ出来ずに1年が過ぎました。

期首には3年後に2Rより地区ガバナーが誕生するので、まずリジョン内のゾーン間の交流と親睦を図りたいという思いでリジョン合同例会や他ゾーンクラブとの合同例会等を、第1回会長・幹事会でRCとしてお願いをしましたが、長引くコロナの影響によって現実が難しくなりました。

今になって思うのはコロナの事を考えすぎて消極的になっていたと思います。

次年度RCにはZC・会長・幹事・会計へ積極的に意見を発信してもらいクラブ・ゾーン・リジョンの活性化を図って貰いたいと思います。

## 3RRC 塩谷 みち代



WEB会議を始めとする新しい形のニューノーマルスタイルでの会合が定着していきつつある中、奉仕活動においてもライオンズメンバーとしての意識が薄れることがないよう、この状況下にあっても奉仕活動を実践しなければならない。奉仕活動の新しい形を模索し、今後も地元企業や社協との連携により、PRも兼ねて、進めていきたい。

次年度は、3Rと4Rがひとつになり、3・4R(20クラブ)としてスタートします。より良いリジョンを目指し、繋いでまいります。

次年度RCのご活躍を応援します。

## 4RRC 東 博史



今年度はコロナ禍の中、リジョン・クラブ運営に苦慮してまいりました。鳥山・勝田両ZCと地区委員・各クラブ会長・幹事と共に、新しい価値観・運営方法・奉仕を模索し続け実行した1年となりました。地区ガバナー方針により4Rは3Rと統合し、3・4リジョン2ゾーン20クラブとして次年度より始まります。合同アクティビティ・合同例会を開催し交流を深め、地域社会に根付いた活動をし、大きく活性化してまいります。

## 5RRC 森島 和志



今年度は「コロナで始まりコロナで終わる」マスク越しの笑顔の見えない1年でした。

リジョンを預かる立場として「知足安分」の気持ちで、コロナ禍にあって各クラブの潜在力と可能性を引き出せるように心がけてまいりました。活動が制約される中であっても、各クラブは「持続可能な会員増強」と「社会に貢献できる奉仕」を求め努力してきたと思います。この「はやり病」の試練を乗り越え、私たちは変わることができ、変化していく必要があると思います。

次年度以降は、コロナの収束した社会をライオンズの「持続可能な奉仕活動」で素晴らしいものにしていけると信じています。

## 6RRC 松本 佳久



今年度は感染拡大も少しは落ち着くであろうと期待をしていましたが想定外となりました。よく使用した言葉や感じたことを報告致します。

- ・自クラブを見つめ直す良い機会である。出来ることを考慮する。
- ・メンバー及び新会員候補者との意思疎通を今

まで以上に図る。

- ・クラブMC・IT委員長、委員会の研修。
- ・Zoomを利用した会合や研修会の開催を検討する。
- ・考慮したことは試行してみる。→次に繋げる。

## 7RRC 大仲 康暉



コロナ禍において血液不足が懸念される中、今必要とされる奉仕活動を行うため10～11月にかけて8日・10会場にてリジョン内13クラブによる「7R合同献血」を実施しました。一致団結し取り組んでいただいたメンバーの皆様のご尽力のお陰で、多くの方々から献血にご

協力を賜りました。コロナ禍の状況下においてライオンズクラブの奉仕のあり方を再確認することができ、大変有意義な合同アクティビティになりました。

## 9RRC 楠 富晴



世界中に「新型コロナウイルス」が蔓延し、今までに経験した事のない500日が経過しようとしています。

とりわけこの1年は、自然災害を含め有事の時の危機管理対応の迅速化・クラブメンバーの絆・ゾーンやリジョンの連携の大切さを大きく感じた年はありません。又、運営の在り方やアクティビティの方法等、立ち止まり又振り返り話し合い、これからのライオンズの進むべき道をメンバーや各クラブと共有出来た事は、次世代に向かって大きな財産となりました。

L出水・L古岡両ZC始め各クラブのメンバー各位に感謝申し上げます。

## 11RRC 上村 明央



新型コロナ禍で、私達は行動を考え直し、不要不急の活動でも、いかにして継続すべきかを考え、また持続的な生活に必要な「自由」についても絶対的・普遍的なのかを再考するようになった。リモートワーク等の働き方改革、地球温暖化等の環境問題、オンライン授業等の教育問題など様々な社会的問題に対して変革が加速している。ライオンズの活動も個人から集団、集団から社会へと、パフォーマンスを向上させる工夫が必要だと思う。

## 8RRC 大田 収一



今年度は、100年に一度の新型コロナ禍の中で明けそして暮れた1年でした。各クラブとも非常に傷んでいると思われる。特に入会間もないメンバーはコストパフォーマンスの低さに失望していないだろうか。ではどうするか、言うは易く行い難しの面はありますが、あらゆる場

面でクラブの魅力を最大限に引き出し、若いメンバーを中心に結束・連帯感を醸成していくことであろう。ZCと各クラブ会長の協力によりこれを最大の責務であると捉え、行動することこそが肝要かと思料する。

## 10RRC 堀口 森次



新型コロナウイルス感染症の拡大により世界中で会議の在り方が大きく変わった。オンライン会議元年ではないですか。慣れない事もあり、画面が急に消えたり、音声途切れたり、接続に時間がかかったり大変である。しかし、これが普通になり遠くへ数時間の会議の為に出来ることも少なくなるかもしれない。そうなっても年に1、2度は会って話し合うのも大切だと思います。

次年度より、MC・IT委員会の活躍に期待しています。

## 12RRC 高木 陽一



今年度はコロナ禍による様々なスケジュール変更を余儀なくされた1年でした。その中でも各クラブは、感染拡大防止対策を講じた上で、可能な限り例会・アクティビティ等を開催され、会員の帰属意識の維持に努められていました。

ワクチン接種も始まり、次年度は少しは状況の改善も見込めますが、コロナと共存する中でのライオンズ活動の在り方を構築して頂ければと思います。1年間ありがとうございました。

# コーディネーター並びに各種委員長ご報告 — コロナ禍の1年で気付いたこと、次年度へのアドバイス —

## クラブ・地区活性化コーディネーター 坂口 博文



今年度、クラブ・地区活性化委員会として予定していた活動は達成させて頂けたと思います。活動方針に対し、会員各位の御理解、御協力を頂いた事に感謝申し上げます。

特に1、3、4Rにおけるリジョンやゾーンに統合に際して、RC・ZCの御協力に感謝申し上げます。下半期においては3年間の内会員数15名以下となったクラブの懇談会を実施させて頂きました。そこで約30クラブの実情についてヒアリングさせて頂きましたが、この機会が次年度以後のクラブ活性化に繋がると確信しております。

コロナ禍において活動縮小は辛いところではありますが、今だから出来る事、今しか出来る事を探し、次年度以後の地区活性化に繋がる事を願います。会員各位におかれましては今年度の御協力に感謝申し上げます。

## GLT委員長 岡田 信次



今年度は、ニューホープメンバーのクラブ訪問・奉仕活動・地区セミナーの開催など、非常に制限されてきましたが、コロナ終息後も自クラブでの指導力育成は重要だと思えます。

特に新会員（メンティー・入会3年以内）には地区役員・地区委員と協力し、出来るだけ自クラブで、メンターを決めて（会長以外もOK）メンティーにメンタープログラムに沿ったしっかりとした人材育成を行っていく事が、自クラブの活性化にも繋がると思えます。

## FWTコーディネーター 伊集院 峰子



コロナ禍により、周年記念の中止や延期、奉仕活動も思い通りにできない状況ではありましたが、「コロナ禍だからできません」ではなく「コロナ禍だけど、できることを考え納得するまでやる」との思いで奉仕の灯を消すことなく活動されておられることに心動かされた日々でした。

未来は今をきちんとすることで“おもい”を繋げていくことの積み重ねであると思っています。立ち止まらず考えて邁進していくことが必要です。これからも心を一つに頑張りたいと思います。

## LCIFキャンペーン100コーディネーター 岡田 隆彦



LCIF委員会は、古川委員長を基とし、西木コーディネーター、12名の委員さんとスタートしました。今年度は335-B地区メンバー様にLCIFの事を少しでも理解して頂くため、各リジョンで研修会を開催したいと考え、各委員さんには大変な御尽力をお願いしましたが、コロナ禍の中、研修会ができたのは12R中9Rで終わり、大変残念でなりません。

今年度はメンバー様の御協力により、110万\$を突破いたしました。これは、335-B地区の最高の金額であり、世界中のライオンズ準地区でも指折りの地区であると自負しております。

次年度も『We Serveの力』で国際貢献できる準地区になって欲しいものです。

## GSTコーディネーター 佐野 圭一



種々の制限下、思うような活動ができない一年ではありましたが、各クラブでは創意工夫の元、アクティビティに取り組んで頂いたことに感謝申し上げます。

コロナ禍による血液不足を補うべく積極的な献血奉仕をお願いしたところ、355-B地区ではコロナ前対比約90%の実績を残して頂きました。コロナを経験した世界ではコロナ以前より助けを必要とする人は確実に増加しました。奉仕へのニーズがある限りライオンズクラブのアクティビティは存在します。私も一人のメンバーとして、今後共精力的に取り組んでいきたいと思えます。1年間、ありがとうございました。

## GMTコーディネーター 西尾 良典



COVID19 はすべての予定を変え活動を制限する悪影響がありますが、そんな中でも委員会では工夫を重ね活動するなどハンデを克服する前向きさに感心しました。セミナーのみならず月別コンテスト、クラブ相談会を行うなど、限られた中でも将来を見据えた取り組みを行うことで精神的な基礎が築かれた1年でもありました。

きっとこの経験は次年度以降の委員会活動に反映されるものと確信しています。今年度GMT委員会の活動にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

## LCIFコーディネーター 西木 宣雄



コロナ禍という未曾有の状況下、LCIF事業に深いご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。古川委員長を筆頭に12名のリジョンの委員によるLCIF啓発活動・岡田100コーディネーターの熱い心意気の結果、335-B地区は110万ドルを達成致しました。加えて地区159クラブ全てのクラブがLCIFに参加。「ゼロクラブ」オールクリアの偉業の達成は中谷地区ガバナーの念願でもありました。この勢いをもって正岡地区ガバナーエレクトにバトンは渡されました。

## クラブ・地区活性化委員長 金岡 弘和



上半期に3リジョンと4リジョンの合併、1リジョンの3ゾーンから2ゾーンへの再編が、各RC・ZCのご尽力のおかげで成功したことは、感謝しております。

次年度に向けて、それによるクラブの強靱化・クラブ運営の適正化に邁進して頂きたいと思えます。

日本ライオンズ大学校の講師募集までをGLT委員会と共に行いましたが、講師派遣まではコロナ禍で行えなかったのが、次年度の皆様にお越し頂くクラブ例活性化にご活用頂けるよう宜しくお願い致します。

3月中に会員数15名以下の少人数クラブ面談ができたことは、現況把握出来ました。

合併リジョン・ゾーンには、サポート委員会の設置をお願いしました。

## GST委員長 高松 順一



今年度、GST委員会では奉仕事全般を担当し、各委員会と協働し「おもいをもったアクティビティ」を推進してまいりました。

コロナ禍にありながら、各クラブ創意工夫し素晴らしいアクティビティを実施されました。できなかったことが多い中、献血アクティビティでは骨髓バンクドナー登録会の併設をお願いし、大阪府・和歌山県では大幅にドナー登録者を増やすことができました。

今後も地区の取り組みとして継続実施できればと思えますし、説明員の不足も考えられることからセミナー開催などを経て理解者・協力者を募っていければと思います。

今年度、GST委員会にご協力を頂きありがとうございました。

## GMT委員長 平田 佳之



アスク1セミナー、意見交換会等で前向きなクラブが多かった事は嬉しかったです。が、しかし結果がついてこなかったのも事実です。コロナ禍で思うように活動ができない中、頑張っているクラブを見て、今後GMT委員会は伸び悩んでいるクラブに手を差し伸べ、会員増強の必要性を伝え、クラブの発展・将来を考えて頂きたいです。

## LCIF委員長 古川 繁浩



今年度はコロナで始まりコロナで終わる大変な1年となりました。LCIF委員会も委員会開催は4回のみとなりましたが、両コーディネーターと委員の基となる協力のもと委員会目標額100万ドルに対して1,113,921.53ドルと当初の目標を達成したばかりか11%強の寄付を頂きました。335-B地区のメンバーに心より感謝申し上げます。

次年度への申し送りについて

- 1.LCIFセミナーは各リジョン単位で行い、地区委員が主体となってセミナーを開催できれば意識の高揚に繋がると思えます。
- 2.LCIFマニュアルとDVDの併用が解りやすかったので、各クラブへの配布が良いと思えます。

## MC・IT委員長 松本 直樹



振り返ると実に「非接触的」な1年であった。どの職種も大変だろうが、非接触を強いられると、奉仕活動及び親睦活動というのも成り立ちにくい。コロナ収束後は今まで通りの世の中に戻らないという人もいます。それはなんとも言えないが、今まで以上に「心の触れ合い」が大切になるのは間違いない。ライオンズクラブの存在意義もきっとそこにある。ライオンズクラブ自体の変化を恐れずに、柔軟に、触れ合いを見つけよう。実にシンプルな発想だ。

## GLT委員長 竹村 一郎



従来の当委員会が主催する全クラブを集めてのセミナー等に代えて、今年度はリジョン単位のGLTセミナーと新会員スクールを開催しました。

「少人数でかえって和気藹々の中、有意義な会となりました」や「出席者との対話や名刺交換時もリジョン単位での開催でしか出来ない、和やかな雰囲気でも良かったと感じました」などご好評を頂きました。

159クラブのメンバーの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました！

## FWT委員長 西洞院 満寿美



今年度もコロナ禍で殆どの活動が中止となり、会員相互の関係が希薄にならざるを得ない状況が続いているが、ゆうあいの輪を広げる努力を止めてはならない。デジタル化が加速している中、あえてアナログの重要性を忘れず、平常時以上にメンバー間のコミュニケーションを密にする。相互扶助を心掛け、暫定的な規則も検討し、絆を強めて強固な信頼関係を築く。新会員には早期にクラブに馴染んで頂けるよう、メンターにのみに任せるとはせず、皆でサポートする。困難な時こそ、ひと手間かけて心の通うライオンズ活動を心掛けたい。

## 会則委員長 片淵 昭人



新型コロナウイルスの流行で、前年度に引き続きライオンズクラブの活動は低調でありました。今後も予断を許さない状況の中、今はじっと耐える時であるかもしれません。コロナ後の社会の動きを見据え、それに即したライオンズクラブの新しい活動を模索すべき時であると思えます。

各クラブのそして個々のメンバーの情熱が、これからのライオンズ活動を支えていきます。伴に頑張るライオンズの奉仕の灯火を照らしていきましょう。

## クラブPR戦略対策委員長 申島 秀治



この1年、我々の委員会も困惑した年でした。コロナもそろそろ終息するであろうと、憶測で予定を立てたのがそもそも間違いだったような気がします。その反面、新しい気づきが沢山あったのも事実です。このような状況下でも何が出来るか、模索しながらライオンズ活動を楽しみたいと思えます。

PS：委員会としましてGo To Lionsが立ち上がりました。是非、皆さんにご利用頂き、盛り上げて貰えれば幸いです。宜しくお願い致します。

# コーディネーター並びに各種委員長ご報告

— コロナ禍の1年で気付いたこと、次年度へのアドバイス —

## アラート委員長 藤原 篤義



今年度早々、九州南部に豪雨災害が発生し、支援物資供給の難しさに課題を残しましたが、緊急支援金を地区の皆様からご協力頂いたことに感謝をしています。今回新たにアラートチームメンバーを募集し、東日本大震災発生から10年の節目に和歌山・大阪でアラートチームセミナーを開催する事が出来ました。また緊急LINEネット訓練も全体で実施する事ができ、今後のアラート活動に生かされると思います。今後は社会福祉協議会との関係構築を願います。

## YCE委員長 阪口 倫博



「熱い気持ち」で引き受けて頂きました委員の皆様には、存分に力を発揮できず申し訳なく思います。今できる事、今しか出来ない事を考え、今年度は過去にホストファミリーを引き受けて頂いたご家庭に、体験談やその後のアフターストーリーを投稿頂き、335複合地区で取り纏め、文集を作成致しました。成果の見え難いYCE事業ですが、文集を御一読頂き、若者たちの道標となるホストファミリーを疑似体験頂けたら幸いです。

## レオ委員長 中村 明



335-Bレオ地区5レオクラブは大学生主体ですので、新型コロナウイルスの影響で厳しい運営状況になりました。335-Bレオ地区協議会も対外活動は、全て中止となりZoom会議となりましたが、各レオクラブは活発に活動しています。レオクラブ会員数は期首113名で、6月末は67名であります。嬉しい事としては大阪志学台レオクラブの稲尾会長が、335複合地区の推薦により全国で2名選出されるベスト・レオ賞を受賞されました。

## ライオンズ慰霊委員長 太田 勉



5月23日に高野山の物故ライオンズ慰霊碑において、第46回物故ライオンズ慰霊祭を執り行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、ご遺族ならびにメンバーの参列は難しいと判断し、キャビネット三役・前年度キャビネット三役・ライオンズ慰霊委員会により物故者名の奉読、刻銘版の奉納を行い、当日は、その模様をLIVE配信にてご遺族並びにメンバーの皆様にご覧頂きました。

## 国際関係・大会参加委員長 森田 健一郎



第103回国際大会は、ライオンズクラブ史上初めてのバーチャル開催となりました。準備する側、参加する側共に不慣れなことに挑戦となりましたが、コロナ禍が収束した後もハイブリッド方式での開催が主流となっていくと思います。リアルな交流が基本ですが、遠隔地からでも国際関係行事に参加できるという意味においては、思い出に残る革新的な年となりました。

## 年次大会委員長 福山 信宏



最後の最後まで諦めずに開催した地区年次大会でした。色々なご意見があったと思いますが、年次大会の持つ意味の再確認と、皆が集う喜びを噛み締めた良い大会であったと自負しております。コロナの完全な収束はもう少しかかるかと思いますが、諦めず前向きに取り組んで頂きたいと思っております。大会にご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。

# ライオンズクラブ未来予想図 ～ライオンズクラブは近い将来こうなる～



## 大阪天満LC 保坂 幸彦

【前途は明るい】コロナ禍における活動縮小は、社会的情勢や傾向から当然のこと。決して悲観することではない。逆にこの状況に抗うことの方が無理を生じる。この期間、自クラブから1名の退会者も出なかったことに対しメンバーへの敬意を表し、また活動縮小に賛同頂くメンバーと事務局員の理解を深く感じるに至り、「これしきのことでは絆が途絶える団体ではない」と再確認できた。まさに「前途は明るい」と感じざるを得ない。



## 大阪みおつくしLC 家本 陽一

次年度50周年迎えますが、年齢構成も高く成り、十分なアクティビティができておりません。そこで年齢層も若く活動的なクラブとの合併で再構築を図りたい、と今年度末に大阪ゆとりライオンズクラブとの合併を果たしました。合併を機に、新しい考えを取り入れてアクティビティも活発化し、新たな気持ちで、クラブ運営をしたいと思っています。コロナウイルスの蔓延下、種々の制約を受けながら活動してきましたが、次年度も同じような状況が考えられます。養護施設等の訪問も、安全で楽しくできる方法を、前年度大阪ゆとりLCでは非対面も含めて、試みしたので、次年度はこれを土台に各種アクティビティを積極的に実施できたらと思っています。アクティビティについては、他クラブとの交流、合同等も模索していきたいです。次年度役員には、50周年という一つの山を越えて、心新たに活動して下さい。



## 大阪新梅田シティLC 中塚 磨由美

今年度は、コロナ禍でも知恵を絞ればユニークな運営活動が出来る事を学び、企業と複数クラブの共同で、多くの地域へ子ども支援活動が出来ました。未来予想図としてPR効果も踏まえ、335-B全クラブ行える合同アクティビティとして 1. 企業と共にSDGs活動。 2. 教育支援としてライオンズあしなが奨学金など未永く継続し効果を高める活動の検討や、クラブマッチングと共に大阪、和歌山夫々での合同事務局融合検討等、これからの魅力に期待します。



## 大阪梅田LC 中尾 貴子

予測予知できない外部環境の変化により、私たちの生活が大きく変わろうとしています。移動制限・接触回避等の為、デジタル化が加速する中にもありながらも、活動に楽しみを見い出せる工夫、企業や体制に配慮し、自分以外を含め地域社会に思いやりの心や、規範意識をばぐむ事が出来る奉仕団体になっているであろう。後任の会長・幹事には、自由な雰囲気を持続しつつ、培った知識や経験を生かしながら、新たな改革にチャレンジし、発展に貢献して頂ければ幸いです。



## 大阪西LC 齋藤 隆志

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、思うように活動が出来ず残念ではございましたが、一方で感じたこと、気付けたこともございました。平日頃、当たり前に行っていたクラブの活動が行えないもどかさ、人と人との対話がいかに大切で温かいものかということです。今後のクラブ活動において、人と人との対話を中心に、今まで以上に行動型のアクティビティ及び例会等を実施することで、より一層の強い絆が築けるものと信じております。短い1年でしたが、本当に有難うございました。



## 大阪堂島LC 鈴木 重郎

この題目は難題です。私も会長に任命されたときに、色々と考えましたが自分なりの回答も見付けることができませんでした。それならばせめて当クラブが5年先まで元気でいれる様にと考え昼間の例会、昼間の委員会をできるだけ止め、夜中心にしました。対外的に必要な時には三役で担う。そして何事も当クラブ、当メンバーが最優先の考えで行う。人数だけでなく、プライドの持てるクラブでありたいです。



## 大阪天神橋LC 寺井 宏次

『こんなライオンズクラブが欲しいです。』  
 ○労力奉仕活動に寄付と頑張っております。本当に素晴らしいクラブです。  
 ○地区活動の話は毎新年度、アクティビティから始まります。会員は共にアクティビティを希望に満ちて入会しております。  
 ○地区には社会貢献できる福祉学校的なものがあります。そこでは押しつけではなく寄り添ったアクティビティ(行って来ましたと、集合記念写真を撮るのではなく)を実行するのに大事な事、大切なことが学べます。一般会員もとても参加しやすいです。  
 ○子ども食堂もあります。ゾーン毎、リジョン毎等で毎月何処かが必ず継続的に行っています。  
 ○前年度、今年度と新型コロナウイルス感染状況により活動が出来ませんでした。このようなことは起こって欲しくはありませんが今後も予断は禁物です。前向きに考えていく力を養いたいです。



## 大阪はなみずきLC 西山 あかね

例会をZoom開催したり、アクティビティの参加人数を限定したりする中で、物理的に「顔を合わせる事」の重要性を感じるとともに、特に多忙なメンバーにとってZoomやLINEといったツールはクラブにコミットし続けるために大変有用だと感じました。仮にコロナ禍が収束したとしても、大切な魂の部分は残しつつ、思い込みを捨てて柔軟に変化していくことが、これからのライオンズクラブには求められると思います。



### 大阪北LC 今田 正

この1年間は、コロナで殆どの行事が不完全燃焼で終わった。労力奉仕も密になってはいけないうえ、実施できず残念であった。ただひとつ救われた事は、友愛と奉仕の精神は失われず、逆に会員同士の絆は強くなったような気がする。  
今後はリモート例会やスマホを使ったライン例会なども検討されるが、一方通行になりがちのため、心の結びつきが心配される。奉仕活動は、密にならないために全員参加ではなく、継続的に少人数で回数を増やすなどを検討してもよいと思う。



### 大阪淀川LC 水戸 匠

1年間を振り返りますと、例年の半分以上の活動しかできない年でした。当クラブでも集合型の活動は全て中止となりましたが、そんな中、数十年続く活動である、高校生への奨学金援助活動はできました。コロナ禍で大変な時だから、必要となってくる良い活動が続けられたと思います。  
まだ暫く大変な状況が続くと考えられますが、活動が制限される一方で、益々メンバー同士の結束を強めていくことが重要と考えます。



### 大阪西淀LC 長澤 彰

ライオンズクラブの最も重要な活動が社会奉仕活動であることは言うまでもありませんが、会員数の減少などにより、従来のような金銭的な援助や物品の寄贈といった奉仕活動には限界があります。  
ライオンズクラブの会員には、様々な業種の方がおられ、活躍されておられます。そういった会員の方たちがこれまで培われてきた知識や経験、技能などを活用した奉仕活動ができればと思います。



### 大阪東淀LC 馬場 宏造

全国の人々にライオンズクラブが周知されており、人が集まる会場には、ライオンズのメンバーがいて明るくお手伝いをし、それを見て子供や人々がライオンズクラブに入り、人が多く集まるボランティア団体となっていくように願っています。



### 大阪新大阪LC 富山 順基

今、ライオンズクラブとしましては、辛抱の時期かと思えます。無理に活動をすれば、感染者を増やしてしまうかもしれません。今できることは、力(会員増強・退会防止)をつけておくことです。焦らず必ず必要とされ、活動が出来る時期が来ます。その時に士気が下がってしまい、思うような活動ができないことにならないように、今この時期にしっかりとメンバーの維持・増強を図ることに集中することが、大切かと思えます。



### 大阪若獅子LC 芳崎 勝大

私は前クラブの在籍を含め17年間活動してきた中、未来のためには仲間を増やすことがクラブが成長する原点だと思えます。このままの状態では衰退するよう思えます。そのためにはもっと一般の人たちにライオンズクラブの活動を知ってもらえる活動をしていかなければいけません。色々ありますが、これからも活動を継続してやっていきたいと思えます。次年度会長には新しい発想でメンバーが一丸となって飛躍しましょう。



### 大阪大手前LC 西川 勇

現下のライオンズクラブは、メンバーの高齢化に加え、新規会員拡大が困難を極め、人的体制の増強が見通せない状況にある。このような状況から、近い将来、メンバーの減少と財政のひっ迫化は避けられないことになり、活動も低調にならざるを得ないことになると思料される。  
提言であるが、現有の各クラブを再編(スクラップ・アンド・ビルド)して、クラブ単位の体制を概ね50人~100人以上にしてはどうか。各クラブの人と財政を増大化することが、ライオンズクラブの活動強化に資することになると思う。



### 大阪島之内LC 田中 繁彰

今年度は、前年度と同様にコロナ禍の中、クラグ活動・奉仕活動・アクティビティなど、ほぼできないうえ状況が続き、今年度の最終をむかえることになりましたが、その中で中止をするだけでなく、この状況下でできることの話し合いや、親睦の大切さを学びました。  
各クラブいろんな問題を抱えていると思えますが、いままでにかかっていたクラブの問題を解決するいい機会になったのではないのでしょうか。この経験はこれからのライオンズの活動にとっても役立つと思えます。  
ライオンズの精神を素晴らしい仲間と共有し、奉仕活動を通じてメンバー同士の親睦も回り社会貢献することが、身近な家族・友人・職場の方など、大切な人にとっていい世の中になっていくと信じております。  
今年度で縁あって出会ったすべての方々に感謝致します。ありがとうございました。



### 大阪高津LC 森田 孝

最近浸透してきた「ダイバーシティ」という言葉。ライオンズクラブにおいても、価値観の多様化が求められる時代になってきました。特にコロナで行動制限がなされる中、今まで通りのアクティビティやクラブ運営も見直して行くべきかと考えます。  
アフターコロナ一人ひとりが「社会に向けての高い意識を持って、多様な人々と大きな何かを成し遂げていくこと」に努めてまいりたいと考えます。



### 大阪京橋LC 町澤 里果

次年度も少なからずコロナの影響が残ると思いますが、理事メンバーを中心にメンバー間の連絡を取り合い、皆で頑張りましょう。



### 大阪ヴァイオレットLC 網干 ひさ子

現在のクラブは、少人数のクラブが多い中、何をすることも労力不足となり、ボランティア活動もやりにくく、少人数クラブの合併が必要だと思います。会員減少が続くのも、コロナや経済的な事情がある中、ライオンズの色々な行事に参加する事が負担になっています。  
毎年度地区ガバナーが新しい方針を出されますが、代わりに古い委員会等をなくして下さい。毎年度新しい委員会が増えてもついていけません。負担の少ない楽しいライオンズ活動を願います。



### 大阪銀橋LC 小泉 衆逸

現状、奉仕活動は勿論、例会運営も大影響を受け、早い解決を望みます。今年度、新会員5名の入会後も例会出席や、活動出来ぬ事に今後への影響を恐れています。  
近い将来、例会場の件が大きく、ホテル・会場閉鎖・値上げに直面し、今後の対策が必要です。  
会員減少など負の要因に負担も有り、海外事情など参考例を期待しています。新形式の支部運営発足には賛同、関心を持ち、良き実例を学んでいます。



### 大阪ピースLC 中本 卓弘

多くの方がコロナ禍で、環境や生活の変化、経済活動の自粛等を余儀なくされ、逼迫した状況が続き、これまで以上にライオンズクラブの役割は増大していくことと予想されます。  
対面で行えない奉仕活動は、安全性を確保できるよう十分に対策を講じた上で活動し、対面せずとも奉仕できる活動を増やしていくことに注力することがこれからのライオンズクラブの未来であり、今こそクラブメンバーの力を結集して挑むべきところだと思います。



### 大阪天王寺LC 大井 征洋

(1)地区ガバナーの指導により、新会員の若返りに注力。50歳以下の会員を増強し、5年以内に構成比率30%以上を目標とする。  
(2)地区ガバナーの指導により、20名以下のライオンズクラブは合併を促進して、構成員は最低30名以上になるよう指導する。  
(3)ロータリークラブとの業務提携に注力し、双方の活性化を図る。  
(4)大阪天王寺LCは、現在9名にて平均年齢75歳である。これを合併により30名以上とし、平均年齢も60歳以下とするよう注力したい。



### 大阪城東LC 石原 力

当クラブにおいては高齢化が進み、クラブ役員を決めるにしても、労力奉仕をするにしても、なかなか困難を要する現状です。今後は是非とも若い世代に参加してもらい、クラブ運営並びにアクティビティの幅も広げていきたいと思えます。  
そうすれば、さらに地域とのコミュニケーションも取りやすくなり、ライオンズクラブをより理解してもらえと思えます。



### 大阪生野LC 西濱 弘

当クラブの今年度の例会上半期8回・下半期1回開催はしましたが、CN記念式典も含めて全て休会となりました。  
おかげでLINEを活用した会員への連絡や理事同士のコミュニケーション等でSNSの活用が進みました。また理事会や例会準備会等はZoomを使ってWEB上で行えるようになりました。コロナ禍が続くのであれば全ては無理ですが、そういったツールを活用したWEB例会の検討も必要かなと考えています。



### 大阪鶴見LC 安間 正知

現状は、コロナ禍の中、例会の中止や延期の通達に振り回され、今年度(47期)も、半分ぐらいしか活動が出来ておりません。大阪鶴見LCのメンバーは、コロナ関連で直接、事業等に大きな影響を受けている人は、ほとんどいないと思っています。まずはコロナが収束し、早く通常の活動が出来る事を望んでいます。そして従来通りの運営に戻れば、今まで通りの活動が出来ると考えます。特にコロナ後大きく活動が変革する事はないかと思っています。

私の様な高齢者は、パソコンやスマホを上手く使いこなせないで、余計に活動が押えられがちなのはしょうがないと思っていますが、若い人がどんどん入会され入れ替ってくれば、例会の進め方も、相当変わってくるかと思われま。

私も入会し30年以上になりますが、当クラブは30人以上の正会員がいて、クラブとして活動を維持していますが、10名以下のクラブも増えており、最後は解散に追い込まれております。

- ① 若手の入会が少なく、高齢化でクラブメンバーが減少、弱体化が進む。
  - ② ボス的メンバーの個性が強く、不満をもつメンバーがやめていく。
  - ③ 真のライオンズメンバーがいなく、クラブを善良な方向に導くことが出来ていない。
- 等、弱体クラブを見つけ出し、早く手を打てる地区ガバナーを望む!!



### 大阪夕陽丘LC 川西 君和

今年度、我がクラブでは高齢化とコロナ禍による経済変化もあり、メンバー数はかなり減りました。コロナ禍で日本社会における出生数の減少はさらに加速し、このような現実の中では、近い将来メンバー数は現在より50%は減るのではないのでしょうか。鍵はやはり新会員、特に若い世代40代・50代・60代の獲得であります。現状はなかなかうまくはいきませんが、次年度会長はじめ各メンバーと色々知恵を出し合っていきたいと思ひます。



### 大阪カトレアLC 海老海 弘子

今年度は度重なる緊急事態宣言とその延長により、我がクラブでは計画していた行事やアクティビティがいくつか中止となりました。しかし、会員の皆様のご協力のもと、緊急事態宣言期間外ではコロナ対策を徹底した上で、対面での例会や奉仕活動を継続することができました。次年度はコロナ禍前の本来の大阪カトレアLCらしい女性クラブならではの奉仕活動が再開できることを願っております。また次年度執行部の皆様と会員の皆様には、クラブ一丸となって会員増強に取り組んで頂くことを期待しています。



### 大阪マーガレットLC 田中 肇子

大阪マーガレットLCは、主に子供達に絵本の寄贈や災害支援の奉仕活動を行っています。コロナ禍の中で大阪市の図書館全24館にオートディスペンサーと詰替用の消毒液を寄贈致しました。また区民祭りの代わりに企画されたウェブ祭りでも、優秀な投稿をして頂いた入賞者への、賞金の提供という形で協賛させて頂きました。このように地域社会と連携しながら必要なアクティビティを今後も引き続きしていきながら、多くの皆様に喜ばれる事がライオンズクラブの未来に繋がることだと思ひます。



### 大阪港LC 北條 正

これからのライオンズクラブのあり方として、メンバーの高齢化、新会員の減少、退会防止、会費の問題など改革が必要であると思ひます。ライオンズクラブの目的は奉仕であり、また会員が誇れるようなクラブ作りが必要であります。そのためにはメンバーの皆様にご協力を頂きながら、より多くの女性会員、若年会員を獲得し改革していかねばならないと思ひます。



### 大阪中部LC 河南 政明

ライオンズクラブのメンバーは高齢化が進んでいます。このままでは労力奉仕もままならない状況になるのではと危機感を感じています。若手メンバーが増えないと活性化が図れません。会員増強が重要課題ですが、そのためには若い人がライオンズクラブに入りたいと思ってもらえる魅力をアピール出来るかどうか鍵になると思ひます。一緒に活動したいと感じてもらえる、魅力のある奉仕活動を増やしていきましょう。



### 大阪大正LC 盛田 耕作

大阪大正LCは、今のままではメンバーの減少が止まらず衰退する一方です。この原因は外部要因も多々あると思ひますが、一番は大阪大正LCにやり甲斐のある人に誇れるような奉仕活動が無いという事です。その為クラブに活気がなく、新しいメンバーを勧誘しようという気にならない、という事が一番の原因だと感じています。新たに取り組みだした「子ども食堂支部」の結成は、我がクラブにとつて最後の救いの手、再生の起爆剤だと思ひます。



### 大阪福島LC 森本 秀明

私たちは「We Serve」の精神でもって地域への奉仕活動を中心に、会員間の交流と会員の絆を大切に今日に至りました。しかし今、COVID-19ウイルスによって当たり前だった生活様式を根底から変化させられました。それ以前からすでに気候変動や少子高齢化、そしてデジタル社会への変化の流れの中にありましたが、この流れが一気に加速しつつあります。

今まで築き上げた伝統を、このデジタル社会の中でいかにして未来へつないでいくか、次世代に残された大きな課題であります。将来、クラブの運営は簡素で分かりやすい方向に向かうでしょう。そこで生まれた余裕をもって、奉仕活動によりいっそう集中できるようになるでしょう。クラブ内及びクラブ間のメンバーの交流がより豊かになり、ライオンズクラブ生活がより充実し楽しいものになるのではないのでしょうか。その様なライオンズクラブの未来を心より期待しております。



### 大阪プラムLC 中堂 真理子

今回の新型コロナウイルスのような状況が二度と来ないとは言え切れません。ライオンズクラブは近い将来、すでに実施されているクラブもありますが、クラブ例会などをオンラインで開催すれば参加者も増加する気がします。また、遠くの姉妹クラブの方々も参加出来、コミュニケーションを取ることが出来ます。クラブ例会のオンラインが進む気がします。

個人では難しい社会貢献も組織では幅広く出来るので、対面支援活動も活発に行い、ライオンズクラブは平和と全ての人のために存在していると思ひます。



### 大阪浪速LC 中川 恂

今、ライオンズクラブに求められている奉仕は、  
① 子供達の命を守る「こども食堂」 ② 人の命を守る献血奉仕  
①は、もっとライオンズクラブが中心になって「こども食堂」の運営をする。  
②は単独クラブではなく、リジョン単位で企業と合同で大々的なイベントを行う。そして、テレビや新聞で報道してもらう。そうすれば、世間のライオンズクラブに対しての見方が変わると思ひます。



### 大阪戒橋いとはんLC 安齋 善行

まずは、新型コロナウイルスの感染拡大により、事業や生活に影響を受けている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今年度は緊急事態宣言や外出自粛要請等もあり、アクティビティやクラブ活動がままならない状況が続きました。こういった状況においても、少なからずZoom等を使ったオンラインでの例会ができるような体制をつくっていくことが必須になると思ひます。次年度会長においても、できる限りのサポートをさせて頂きます。



### 大阪難波LC 辻本 邦廣

今年度会長テーマは「楽しく活動するワンチーム」、方針は「地域に奉仕、献血活動と会員増強」を目標に掲げ、月2回の例会・地域のイベント協賛・献血活動など会員に接する機会が40回以上の予定でしたが、5月末現在8回の会合しか実施出来ておりません。これからのライオンズの会員増強には、会費の値下げも検討せねばならないと思ひます。40～50代のこれからの会を担って頂きたい世代の会員増強には、一つの条件だと思ひます。又、近隣地域のライオンズクラブと、是非とも共同で地域に協賛できるイベント活動を共有して、両クラブで費用の負担を軽減する活動も行いたいと思ひます。参加される皆様に、ライオンズクラブの活動に意義を感じて頂く事で、大きな宣伝効果があると思ひます。1つのクラブとして活動や広報を行うのではなく、2クラブで共に地域の活動に協力して取り組みたいものです。一方、クラブ独自の献血や防犯、そして清掃活動は特色を持って頑張りましょう。



### 大阪南LC 吉田 之計

新型コロナウイルスが蔓延し、緊急事態宣言により、例会が開催できないことが多い。社会奉仕もままならない。ワクチン接種が増加すれば少し落ち着くであろうが、変異ウイルスを考えると、当分の間、コロナ禍が終息することはないと思われる。高度情報社会では、人と人との交流はSNSが中心となる。コロナ不況はSNSをより促進する。ライオンズクラブもコロナ不況と高度情報社会に適合するように変化することが求められる。



### 大阪帝陵LC 浅川 靖弘

世の中が新型コロナで大変な年でした。例会その他行事の中止のお知らせをするたび、今はこれが最良なのだと思ひました。また、大変良い企画を立てて頂きました実行委員、他の方々、本当にありがとうございました。次年度皆様と新たな集まりが実行できますよう願っております。



### 大阪さくらLC 廣瀬 みち子

とにかく増員・増員と叫ばれるこの頃ですが、何故メンバーになって下さる方が少なくなったのでしょうか。私が思うには、昔と比べて日本では起業家が少なくなり、時間とお金に余裕があり、なおかつボランティアに意欲を持つ人が少なくなったという事ではないでしょうか。従って、運営の方向を若干変更し、時間的・経済的に資源を節約し、ボランティアにそれを振り向ける様にしては如何でしょうか。具体的には 1. 例会 月2回必要? 2. ホテルと食事は必要? 3. リモート会議をもっと進めては? 以上について、再考してもいいのではないのでしょうか。

**大阪阿倍野LC 吉村 実**

57期会長の吉村でございます。昨年度に引き続きコロナに翻弄された1年でした。これからは、オンラインや書面での対応も必要ではありますが、伝統ある我がクラブと致しましては、出来る限りリアルにコミュニケーションを取り、メンバー同士の絆や結束力を深め奉仕活動に慢心したいものです。そのことでリタイヤを減らし、会員増強にも繋がります。またコンパクトなクラブ運営で年会費減額も考えて新会員増を期待しております。

**大阪帝塚山LC 細井戸 眞美**

たくさんの奉仕団体からライオンズクラブを選ぶ基準は、魅力あるアクティビティ・輝かしい歴史・世間の評価ということより、人間関係が最大の判断材料になると思います。定義は難しいですが、魅力ある人々が加入している組織であること、メンバーが楽しく活動していることが最大のアピールだと思っています。規律のある組織であり、かつメンバー同士が仲良しな組織が理想だと思います。

**大阪すみのえLC 山下 亮介**

コロナ禍で普通の生活が普通にできなくなった世の中でライオンズクラブとしては、従来通りに奉仕はもちろんのことメンバーの増強の為、身近な事からやっていかないと、と思っています。  
例えば子ども食堂の為にライオンズクラブに入るとは言わず、協賛協力をお願いして、会社名・個人名を頂き、それを新聞などに掲載していくといった取り組みをしていきたいと思っています。

**大阪大和川LC 木村 博之**

**どうあるべきか**  
個人的には本会員、賛助会員での活動が本来の姿と思います。  
**どう変わっていくべきか**  
都心部におけるライオンズクラブ単独では負担(費用、人力面)が年々重くなっているため、今より増して実働可能、賛同してもらって外部奉仕団体(個人を含む)との協賛、参画等が必要だと思っています。(上記どうあるべきかと相反しますが・・・)

**大阪コスモスLC 古川 芳子**

今年度コロナ禍で例会もリモート、奉仕活動も出来ず、会員の皆様とも思うように向き合えない1年でした。未来予想図～今の現状では考えられない状況です。  
リジョン・ゾーンの編成、リジョンの統合で未来に向けて垣根を越えてウィーサーブの精神を継承して、一歩ずつ前進していけたらと願っています。

**池田LC 田波 篤人**

様々なことが起こった1年であったと思います。随時、瞬時に判断し行動していかなければならない。「試練」であり、成長の場であったと実感します。  
しかし、これまで以上にこれからの方が重要であり、好転させるかどうかの岐路に立たされているように思います。ひとりでできることは限られていますが、ライオンズクラブのメンバーの結束で、今まで大きなものを得てきました。これからもそれは不変であると思われれます。真リーダーのもとメンバーの団結がどんどん強くなっていくVision(ビジョン)が想像できます。  
明るい笑顔溢れる未来はすぐそこまで来ています!

**豊中LC 野口 亮**

各クラブ会員数が減少する中、高齢化もあり大変な苦労があるとは思いますが、今までの物を寄贈するアクティビティではなく、地域社会を巻き込んだ事業を展開すれば、ライオンズのPRにもつながり、認識も高まり、会員増強の一助にもつながると考えます。又、少人数クラブが多くなってきましたので、機構改革でまずは事務局を合併合理化、活性化を図るための前向きなクラブの合併というの1つの選択肢としてあると思います。

**豊中中央LC 山根 創史**

新型コロナウイルスの影響で加速したDXを、積極的に取り入れ、伝統を守りながらも柔軟で多様な対応ができるよう整備されている。そのような中、人と人のつながりが希薄にならないような温かみのあるアクティビティ、または例会を開催する必要があると考えます。

**豊中南LC 高坂 義雄**

ライオンズは自己PRが非常に下手である。  
もっとマスコミに大いに訴えるべきである。  
サウンドステーションでアクティビティの継続中であるが、お客様には「ライオンズは色々な事業をしているんですね。ライオンズの会員になりたい」という方が数名おられたが、会費で諦めました。会費も少なくボランティアで有志のみ金を出し皆で運営できたら最高に思います。

**豊中北LC 小中 秀己**

昨年はコロナ問題が勃発し、先行き不透明な中での新年度の始まりでした。例会やアクティビティなどの数多くがコロナ問題で中止となりましたが、各会員との連絡網は例年にも増して充実しており、クラブ運営にも理解を示してとても協力的でした。  
ライオンズクラブはこれからも会員同士が横の繋がりを大切にして、相互信頼と友情をしっかりと深めて、会員である事に誇りを誇る団体である事を望みます。

**北摂ローズLC 山岡 千賀子**

活動を制限された1年、少し楽しい空想を。ゾーンで1つのクラブにしてしまえば?  
メンバー数200名超え、クラブ役員に追われることもなく、部会に分かれて奉仕活動を楽しみ、月1の例会は毎回パーティ気分。  
仕事の忙しい現役世代や体力の無い世代も、会員であることで、自信を持って我々は奉仕活動に参加していると胸を張れる。でも、頑張り屋さんにはやはり走り回る。

**箕面LC 島中 宗数**

今年で入会丸15年になります。組織には各クラブの体制が年々変化しますので、それぞれの運営・事業・アクティビティには理解が必要かと思えます。又、会議等は必要最小限をお願い致します。我がクラブはメンバーの減少が顕著でありますので、クラブ内の役職の再編が必要かと思われれます。  
又、ライオンズクラブメンバーとしてステータスは必要かと思えますが、それは個々の思いとして。新会員には新しい環境作りが必要です。

**吹田LC 白井 順子**

○一つのクラブだけではなく、合同で何かを考えて実行していく。  
○地域の小さな事にも目を向けて入り込んでみる。  
○ライオンズの名前をアピールするべく方法を同時に考えてはと思います。  
※次年度会長へ  
もっと仲間意識を持てるようにできるといいですね。

**吹田東LC 酒本 直弘**

ライオンズクラブがどうあるべきかですが、メンバー同士のより一層の交流・結束を図っていれば、退会者の防止・新メンバーの入会につながると考えています。  
また、クラブ以外では、今年度のような非常時でもアクティビティを受け入れてもらえるように、地域や他の団体と顔の見える関係作りが重要だと思えます。

**能勢LC 松村 孝志**

人口減少に伴い、会員数の拡大には至らず現状維持が精いっぱいのところでは。  
ここ10年の会員数の見通しを考えると厳しいものです。  
今後の活動として、能勢の自然豊かな町を生かした活動が出来ればと思っています。

**箕面船場LC 伊原 達也**

我がクラブは3ヵ年計画で「次世代の為に」変わる改革を行ってきました。運営面では、若い世代が入りやすく、且つその力を発揮できる自由な環境整備、事業面では、地域の他団体と連携を図り、顔の見える奉仕活動にシフトチェンジを図りました。過去と未来を見据えるライオンズも、未来に向けて変わる勇気が必要だと、このコロナ禍で再確認しました。  
次年度は3ヵ年計画の最終年。次年度会長にはその集大成と更なる展開を期待しております。



### 高槻LC 伊藤 福宣

コロナ禍のような状況下では、ライオンズクラブはこうあるべきという考えを少し緩め、無理に通常の活動をしようとせず、やり方を工夫したり、日頃取り組めない問題に目を向けてみる必要があります。そうすると、今まで通りの流れでは見落とされてきた新たな発想が出てきます。これからは、本来の目的は大切にしながら、型に固執しない多様性のあるライオンズクラブの新しい扉が開かれると信じています。



### 茨木LC 大崎 邦治

2021年7月に茨木LC 会長テーマとして『全員参加で We Serve 』で始まりましたが、新型コロナ感染拡大のため年間の例会・アクティビティが7割から8割が中止になりテーマを実行できませんでした。しかし、茨木LCは次年度CN60周年を迎えます。例会は出来ませんでした、CN60周年を迎える事の歴史と伝統を現会員が深く認識し、諸先輩方の刻んでこられたライオンズを今後にして未来へと継承しなければなりません。  
335-B地区ガバナースローガン『おもいを伝え新しい扉をひらこう〜クラブは主人公〜』私はクラブは主人公〜と思います。種々の研修で学ばせて頂いた中で大切なのは、各クラブの発展ではないでしょうか。各クラブの発展がなければライオンズクラブの将来が心配になります。各クラブの会員全員がライオンズの主人公であることを認識することこそ、今後の発展につながると期待します。『全員参加で We Serve 』



### 摂津LC 藤岡 岳

新型コロナが蔓延し3回目の緊急事態宣言が発出され、CN55周年記念式典も中止に追い込まれる事態となりましたが、どのような状況下でも創意工夫を重ね、大正川のクリーンアップ作戦・“救える命がある”献血奉仕・骨髓バンクへのドナー登録等、これらのアクティビティに取り組んできました。今後もライオンズの“We Serve”基本精神を堅持し、地域に貢献・地域医療への支援のアクティビティを強めていくことが肝要かと思っております。



### 島本LC 奥村 幸正

ライオンズクラブは、「地元根差した活動を第一に」と私は考えますが、人口3万の町での若手入会については、地元の人員にこだわらず、当クラブに関していえばもっとSNSを活用し、他の市区町村からでも入会できるようライオンズの活動を発信すべきだと思います。次年度の会長にはぜひそのような活動に力を注いでほしいと思います。



### 高槻中央LC 岡田 みどり

高槻中央LC会長として、全く無力であったことをお詫びいたします。今はまだ感染元年！変異しながら生存するウイルスとの戦いは、簡単には終わらないでしょう。本市でも70名近く死亡。重症化が早まり、医療を受ける事なく若者が亡くなりました。医療崩壊！悲しみの中、従事者は命に向き合い続けています。「自分の命は自分で守る」Lパーソンが先頭に立ち、自らの行動に責任を持つ事こそが“We Serve”ではないかと思っております。  
私は多くの行動規制を、命の現場で働く皆の為に、守り続ける覚悟です。



### 茨木オークLC 脇澤 元

計3回の献血奉仕活動以外、継続事業はすべて中止となりました。例会も半分近くが中止となり、メンバー間の交流の場が絶たれました。諸事情からリモートでの例会等は行えませんでした、やはり無理をしても、リモート等にて交流の継続を図る必要があると感じました。次年度も引き続き厳しい状況が続きますが、未来を見据え、30代から40代の新しいメンバーをどんどん迎え入れ、より活発なクラブとなるよう頑張りましょう。



### 高槻グリーンLC 森口 美代子

これからのライオンズクラブに対しては各団体と協力し、防災に対しても意識を強く持ち、迅速な対応が大切だと思います。またZoomを活用したリモートの必要性も痛感しました。次年度会長には継続事業である祭りの参加からはじまり、本来の活動ができ、楽しい例会の復活を心より祈っております。今年度は数々の事業が中止の中、コロナ禍の合間に皆様ご協力のもと、医療従事者支援チャリティコンペを開催できたことが最高に幸せでした。感謝。



### 茨木ローズLC 八崎 輝義

雌伏〇年、今こそライオンズクラブの存在意義を広く市民にPRする時(全戸配布、地元新聞など利用)  
[内容例] 薬物乱用・・・ゲートウェイドラッグに近づくな、壊れた脳は再び戻らず、米国の平均寿命の短いわけ(日本と比較)  
糖尿病・・・コロナ重症化と糖尿病、1月14日を目指して、3大障害シメジとは?  
メンバーに対して・・・会長ニュースを少なくとも月1回発送  
(例)上記に関すること、上部から会長宛に来る書類で参考になること、メンバーからのひと言エッセイなど



### 茨木ハーモニーLC 土畑 純子

例会はいつもの例会に参加できないメンバーの為に、LINEやZoomによる例会参加ができ、例会誌もLINEで共有する。出欠はアプリを利用する。いろいろな情報はだれでも共有できるようにする。一人一人の個性を生かしたクラブ運営をする。事業は、地域に関係ある事はクラブで取り組み、Lion全体でできる事業を増やす。今できることは何かを常に考えて行動していくこと等、気持ちをポジティブに。笑顔で思いやりをもって、取り組んでください。



### 枚方LC 三好 富博

今年度当初からコロナ禍で事業や例会が中止となり、その中音楽家達が演奏会の開催が出来ず、クラシック音楽の文化が途絶えるのでは、という危機感を感じ、若い音楽家を支えるべく、新事業として「枚方ライオンズクラブフィルハーモニー」を創設しました。6月8日、19日の日程で演奏会をYouTubeで配信致しました。音楽を通じて少しでも皆様を励まし、そしてライオンズ活動をSNSなどで発信できればと思っております。



### 守口LC 谷尾 文孝

今年度は、コロナ感染症で始まり！コロナ感染症で終わる！本当に残念でなりません。このような状況下においてメンバー、ご家族の安全安心を一番に考えて活動すべきだと思います。クラブの未来についても、We Serveの志を忘れず、苦難・困難・災難を乗り越えられる様に！クラブとして何が出来るのか！何をしないといけないのかをメンバー一同で協議し、行動に移すべきだと思います。新たな一歩を踏み出せば！何かが変わる！



### 枚方中央LC 野口 秀明

ライオンズクラブは、世界最大の奉仕団体として、長年世界各国また日本全国各都道府県において青少年健全育成、視力障がい者支援をはじめとする各種障がい者支援、献血活動など多方面にわたる奉仕活動を通じ、「我々は奉仕する」のモットー通り素晴らしいボランティア活動を根付かせました。今後はライオンズクラブとして「LCIフォワード」の継続事業「グローバル奉仕の枠組(糖尿病・環境・飢餓対策・小児がん・視力)」において年間2億人への奉仕実現を目指します。  
さらに、地域においては、青少年プログラム・災害被災地支援・献血やヘッドネーション・スポーツイベント支援など交流活動や社会奉仕活動を通じ、地域の振興に貢献します。  
社会が求めている奉仕は多種多様あり、特にコロナ禍ではさらに多様化するでしょう。それに対応するためにはあらゆる職業、幅広い年齢のメンバーが必要です。多種多様なメンバーが集まり協力することで、我々ライオンズクラブの奉仕をグローバルな活動にすることが出来ると考えています。  
枚方中央LCは少人数のクラブですが、今後も、さらにコロナ禍においても社会が求める奉仕の実現の為、会員増強に力を入れ、今まで以上に団結し、自信・誇りをもってライオンズ活動に取り組んでいきたいと思っています。そうすることで、さらに素晴らしい魅力的なクラブになると確信しています。



### 寝屋川中央LC 佐々木 一恵

ライオンズクラブの活動は人と人の絆の上に成り立っています。これまではどんどん町へ出て活動をしていくことで絆(仲間)という貯金を殖やしてきましたが、今後はライオンズの活動を一般の方を含めた外部へ発信することでその貯金を殖やしていくことが必要で、見てもらい交流できる場を作ることが大切です。是非、いろいろ楽しい発信を考えていって下さい。きっとその先にはもっと多くの人とのお会いがあるはずですよ。



### 枚方ローズLC 平峯 由浩

今年度1年コロナコロナと振り回された年となりました。ライオンズクラブの未来予想はわかりませんが、1年間会長を務めさせて頂きましたが、形を変えてでも出来る限り例会やアクティビティを行うようにした方が良かったと思えました。Zoom例会も3回しましたが、行うたびに参加者が増えていました。今後はさらに人と人の繋がりを大切にライオンズライフを楽しんで頂きたいです。



### 堺LC 石井 宏之

堺LC、第63代会長の石井宏之です。殆どのアクティビティ及びクラブ活動が中止となり残念であります。このコロナ禍の中で教えてもらったことは、人は自粛要請においていろいろと知恵を出し、リモート、Zoom等々での連絡や交流をもちました。素晴らしいことだと思います。反面、人は人によって支えられ、コミュニケーションがなければストレスも溜まり、いざこざも多くなります。今後のライオンズクラブの在り方としては、奉仕活動の中にメンタル的なサポートも入れ、物心共に成長し活動していけることが良いと思います。次年度の西洞院会長は、堺LCでは初めての女性会長になりますので期待しています。

**堺浜寺LC 吉田 浩二**

今般、新型コロナウイルス感染拡大という先の見えない厳しい状況の中、社会情勢も大きく変わり、会員のクラブに対する考え方も変化し多様化してきていると思います。このような時であるからこそ、会員一人一人がライオンズクラブのあり方や行動について真剣に考え取り組む必要があると思います、そこで変えなければいけないもの、変えてはいけないものを見極め、地域社会に伝えることで希望あるライオンズクラブとなるとと思います。

**堺陵東LC 木村 武志**

大人数での集まりが困難になり我々に今何ができるのか?ずっとその答えを探し続けていた1年であったように思えます。接触を控え何かを寄贈する、寄付をする。それだけでは満足のいく奉仕が出来ない。やはり会員同士が発案し協力し、汗をかい一生懸命に奉仕することが本来の姿だと思います。次年度会長には古き良きものを引き継ぎ、又新しいことへの挑戦をしていただき全力でサポートしていきたいと思うところでございます。

**堺高石LC 田中 亜渡夢**

今年度はコロナ禍の中、例会含め集まる、動くということが困難でありました。その為ZoomはじめSNSが多用されましたが、時間の使い方としては効率的であり今後も会議、打ち合わせ等はSNSが増えていくと思います。  
また今年度紹介されたGo To Lionsの様に仕事に於いてもメンバー間で有益になる様な情報ツールが増えていけば、より会員拡充に、また既メンバーの離脱防止につながるのではないかと思います。

**堺仁徳LC 中原 謙**

2020~2021は本当に活動を制限された1年でした。各メンバーとの打合せもままならず Zoom例会等IT化も中々進んでおりません。当クラブにおきましては、海外留学生への支援やホテル観賞会等中止となりました。  
献血アクティビティでは、声も出せず看板を持って立っただけで、メンバーも不安の残るアクティビティとなりました。  
このような状況下においては、対面での活動が出来ない為、寄付でのアクティビティしか考えられず模索の毎日でした。  
次年度はこの様な緊急事態時においても各メンバー同士の繋がりを絶やさず、他のクラブと連携を取り、より良いアクティビティを進めていきたいと思っております。昨今の情勢においても繋がりを大切にしておけば人々に笑顔で奉仕活動出来るものと確信しております。  
1年間ありがとうございました。

**堺登美丘LC 近藤 晶久**

我がクラブは、メンバー全員がLINEグループに参加しています。今年度も例会が殆どできず、メンバーから早く例会がしたい!皆の顔を見ながら食事がしたいと言う声を沢山頂きました。例会が出来ない分、全員で写真付きLINE近況報告を行いました。それで何とか、コミュニケーションを図る事ができました。しかし、本来は例会でチームワークを高め、アクティビティで充実感を共有する事がライオンズクラブの魅了だと思います。

**堺南LC 田邊 進**

我がクラブは結成46周年を経過し、チャーター以降、特に献血奉仕に力を入れ、献血車を寄贈して地域社会に奉仕して参りました。さて、この1年程を振り返って、コロナに振り回された感がいたします。大人数の会合禁止のため、例会はもとよりクラブ活動や奉仕活動の殆どが出来ず、ままならぬ年月が過ぎました。  
ワクチン効果が徐々に期待できそうな雰囲気の中、次年度会長は元気でリーダーシップのある会長ですので、大いに思いを託したいと思っております。

**堺フェニックスLC 石井 恵子**

スピード感を持って積極的に行動できるクラブを目指して、メンバーがクラブ内の情報へのアクセス、過去のアクティビティや蓄積したノウハウへのアクセスが、できるようにITを活用したシームレスなクラブ運営を行います。メンバー全員が積極的にクラブ運営に関わり繋がりを強め、長期にわたり活躍できるクラブとなります。

**泉大津LC 山下 松弘**

現在、新型コロナウイルスの影響により例会、アクティビティ共にほとんど行えない状況になっております。経済的な要因やモチベーションの低下により退会者も増加していく傾向にあります。  
ライオンズクラブとしての社会貢献や奉仕活動を行うためには、まず自クラブの充実が必要となります。次年度会長には会員同士の交流の機会を増やし、意義ある奉仕活動・アクティビティを実施していただければと思います。

**和泉大阪LC 阪口 正義**

老兵は口出さず、ただ暖かく見守るのみ。若返りを進める中ではどうしても口を挟む我々は、百害あって一利なし。ジェネレーションギャップは埋めようがない。静は会員が増え、動は会員が減る。それが出来てくるクラブは発展し、出来てないクラブは衰退する。我々はただ見守ってただけでクラブは会員が増えて希望ができた。我々は未来予想図をリアル展開しているクラブである。

**いずみそれいゆLC 木ノ本 弥生**

今年度は、通常のクラブ活動やアクティビティが中止されたため、今年度だけの取り組みとして、地域社会の子ども達へタオルハンカチや本などを寄贈し、私たちの想いを伝えました。メンバー皆でアイデアを出し合いクラブ一丸となった年となりました。また、例会は何度か中止になりましたが、なかなかリモート例会まで行う事が難関でした。今後このような不安定な状況下でも対応できるリモート例会をスマートに開催できるようなシステムを地区若しくはキャビネットで設置して頂けたら幸いです。

**岸和田LC 小倉 正恒**

コロナで始まり、コロナで終わりそうな1年の中で、ライオンズクラブの役割は何だろうと考えた時に、これまでの各クラブ独自の事業といつ起こるか分からない災害(コロナも含め)に対する危機感を持ちながら、地域および自治体との連携を持って対処できる事業の構築をしていくことが大事だと思う。時代の流れや社会のあり方の変化に対応しながら、地域の人々の為そしてメンバーの為の優しいライオンズクラブであることを望みます。

**貝塚LC 藤本 吉幸**

今年度は、コロナ禍でほとんどの奉仕や例会が中止となり、当たり前前に出来ていた事が、出来なくなる異常な年でした。ですので、今回の事で途切れてしまった、みんなとの「つながり」を取り戻していく活動がライオンズクラブにとって大切であり、取り組んでいく事だと思います。

**岸和田中央LC 烏野 隆生**

この1年を振り返って、新型コロナウイルス感染症の影響で本来のライオンズクラブの目的である奉仕活動が制約され、定例会や理事会においても中止やWebでのリモート会議など、メンバー一同が顔を合わせての会議や活動ができませんでした。今後、将来のライオンズの在り方を考える機会を与えられたと思います。時代の流れと共に、従来の活動をこなすのではなく、メンバーが無理のない活動に参加してもらうことがクラブの活動を継続することになると思います。

**岸和田千亀利LC 谷脇 廣行**

この1年、コロナ禍の中において本来なら年間24回の例会開催のところ、通常例会を12回開催したのみでありました。チャーターナイト記念例会やクリスマス例会の中止等、前代未聞の事態となった1年です。世間で言うリモート会議等も検討はしましたが、メンバーに高齢者メンバーもあり実施不可と判断致しました。  
ライオンズ活動は集い、お互いの健康を確認し合い語らう、そして奉仕するという原点思想を改めて思い起こしました。そして振り返った時に残念感と寂しさでいっぱいです。  
次年度会長に望む事は、コロナワクチン接種もどんどん進む背景の中で、コロナに委縮することなく集う在り方を工夫して、まず活気を取り戻す事に取り組んで貰いたい。今年度を参考にする必要は何もないと伝えたいです。

**岸和田コスモスLC 松木 千鶴**

私が想像する未来予想図は、仕事・プライベートにおいて充実していて自分のネットワークを活用して、アクティビティや災害救援などに参加する人たちの集まりで、そういう人たちにあこがれて入会したいと思われる団体であってほしい。

**泉佐野中央LC 勘野 圭子**

今年度は、コロナ禍の中で始まりクラブ活動や奉仕活動の中止や延期をしなければならぬ苦しい1年でもありました。しかしその中でメンバー全員が「何かできることからしよう!」と一つになり『ウィーサープ』の精神のもと活動した1年でもありました。そして私どものクラブではZoomを使つての理事会や例会も開催し始めたので次年度も大いに活用してメンバー全員との交流を図っていきたくて望んでおります。



### 岬LC 道工 晴久

永い歴史のあるライオンズクラブであり、その間に培って来た物事は大切に守っていかなければならないが、「何をしているかわからない。お金を持っている人々の集まりだ。」という考えを持っている方が地域に多くいる事は事実であり、もう少しハードルの高くない組織づくりをしていく必要がある。



### 和歌山LC 山本 岳史

コロナ禍の中、クラブの存在意義を考えさせられる1年になりました。やはりライオンズクラブの会員である意義は人との繋がりだと思います。入会していなければ出来ない新たな出会いがメンバー各々のより豊かな人生に繋がるのではないのでしょうか。そういう意味では現在始まっているGo To Lionsは素晴らしい取り組みです。現在、飲食業だけですが登録数増加と他業種への拡大を期待します。是非友愛の輪を拡げてまいりましょう。



### 和歌山葵LC 小川 勝之

終息の兆しのみえない新型コロナウイルス感染症により、例会・理事会が休会となり、各クラブにおいて実施されている様々なアクティビティも中止せざるを得ない状況となっています。しかし、逆境も捉え方ひとつで、継続アクティビティ、今後取り組みたいアクティビティについて検討するチャンスだと考え、行動が制限されているからこそできること、今の状況だからできることを探してみたいと思います。



### 和歌山西LC 嶋 公仁

ライオンズクラブの未来では、まず、地域の人々とライオンズクラブとの信頼関係をより強く確立していることを願います。そして、PR活動はもちろんのこと、クラブメンバーの意識改革も進み、誰もが憧れ、クラブの活動に参加したいと思えるような組織になるべきであると考えます。そうなることで、メンバー不足で右往左往している現状はすぐに打破でき、より良い奉仕活動に専念することができると信じています。



### 和歌山伏虎LC 藤田 泰成

今年度は厳しい状況の中での例会及び奉仕活動となりました。幸いなことに継続アクティビティについては滞りなく計画的に進めることができました。次年度も厳しい状態は続いていくことと思います。コロナ禍で今最大限できることを会員同士が意思疎通を図り、相互理解の精神のもと行えば素晴らしいアクティビティになると考えます。今「できること」をあきらめることなく実行して頂きたいです。



### 和歌山南LC 新家 啓吾

いま私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大による未曾有の事態の只中にあり、私たちのモットーである「思いやりは大切なこと」や「ウィーサーブ」を実践できず厳しい状況にあります。しかしその状況においても、いかに奉仕するかを模索し、クラブの絆を深めてまいりました。全員で困難に立ち向かったことが力となり、将来ライオンズはより深く絆を深め、弱者の立場となり、よりすばらしい奉仕ができるのではないかと思います。



### 和歌山中央LC 太田 達也

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、多くの会議、特にゾーンやリジョンの活動でオンライン会議が利用されるようになり、費用や時間が節約できるようになった。遠方での会議は費用も時間もかかり、特に現役で仕事をしている会員には負担が大きく、そのような担当はできないということで退会せざるを得ない者もいる。これを機にオンライン会議を増やしてもらい、それによって会員の負担が小さくなれば、会員増強に繋がることは間違いない。



### 海南LC 谷上 杜夫

ライオンズクラブってなんですか？ 何をやるんですか？ 若い人からよく聞かれます。勿論「ウィーサーブ」なのですが、今の若い人は自分のことで精一杯で奉仕など興味がありません。本来ライオンズクラブは奉仕・友愛が柱ですが、何かといえばメンバーを増やせ、クラブをつくれ・・・とキャビネットは言います。少ないメンバーでも活動できれば良いじゃないですか？ でも、ゾーンの役とか地区委員の役とかで、少ないメンバーでは活動できない現状です。ここを変えていかないと、これからはクラブ数が減っていくのが目に見えています。それと、お金があまりかからない会にしないと、若い人が集まらないと思います。これからのライオンズはお金持ちの会ではいけないと思います。



### 和歌山ゴールドLC 榎原 剛

2020年1月から発生している新型コロナウイルスによる活動自粛のムードは、当然のことながら当クラブにも影響を与えています。理事会や例会を今まで通りの方法で開催することも難しい状況です。当クラブ自慢の子供たちをディズニーオンアイスショーに招待するアクティビティの実施にも支障が出ています。また、その他のアクティビティも実施できない状況です。アクティビティを実施するための例会や理事会も、思うように開催できないため、私たちにとって重大な事態となっています。今までの奉仕活動から方法を変えることが必要とメンバーも感じていると思います。ただ変化するのは簡単なことではありません。ですが今回のコロナは、前向きに捉えれば変化することを考え、今後の活動内容を考えるいいチャンス私たちに与えてくれているともいえるかも知れません。コロナ収束後の社会を考え、今「できること」をメンバー各々が考え行動すれば、より魅力的な奉仕活動ができると信じています。ライオンズクラブが充実した奉仕活動を行うことで、よりよい社会となっていくと確信しています。そして、メンバーみんながこの難局を乗り越え、新たな価値を創造することを信じています。



### 有田LC 岩本 行弘

前年度に続き今年度もコロナ禍の中での活動となりましたが、メンバー協力の下、献血や労力例会での地域清掃等アクティビティは、ほぼ例年通り行う事が出来ました。今後はクラブ運営には様々な変化があるかと思いますが、奉仕活動は従来通りその状況下の中で出来る事をメンバー皆で考え団結して活動して行けたらと願います。



### 那賀LC 岡井 憲晃

この1年で、奉仕の重要な意味・目的は「人が誰でも幸せに生活でき、より良い生活環境と社会の進歩に貢献できる世界を実現する大きな役割を担う」と教えて頂いたと感じています。最低限の生活を強いられ生きる喜びを感じることができない多くの人が、少しでも幸福に向かい生きられる未来の現実に、ライオンズクラブの奉仕活動が欠かすことのできない重要性を帯び、その目的へと多くの仲間が集うと予測しています。



### 下津LC 上山 都陽一

Zoomなどが試された年でしたが、予定していた行事の多くが中止されました。ライオンズは「人」集まってこそだと痛感しましたし、これからも変わることがないと思います。厳しい状況下で出来る事を模索したクラブは賞賛に値しますが、出来る時が来るまで力を温存するという選択肢も見直されても良いのではないのでしょうか。状況が好転していく中、遅れを取り戻そうと無理をせず、次年度会長さんには頑張っていたいただきたいです。



### 橋本LC 神谷 和生

屋内はもちろん屋外での奉仕活動もままならない今、今までのライオンズクラブの奉仕活動が出来ない。この1年いろいろ模索してきたが答えが出なかった。この課題は、次年度会長と共に継続して考えていきたい。



### 岩出LC 森村 透

私の業界では、年間36時間以上の研修が義務づけられています。今までは研修が主でしたが、コロナの影響でビデオ研修となり、自分の自由な時に自宅・職場で研修ができ大変便利になり喜んでおります。ライオンズクラブに於いても、研修等を、WEB会議・ビデオ研修と計画をしてはいかがでしょうか？ 次年度も会長を重任する事になりましたので、宜しく願い致します。



### 和歌山くろしおLC 野田 真秀

現在のコロナ禍における社会の働き方が変わってきている現状を踏まえると、今までのやり方では、アクティビティもクラブ運営に関しても難しい状況が続いていくのは明白であると考えます。人と人とのつながりが大切であり、クラブ運営に関し人が集まるのが難しい状況をいかに乗り越えていくのかを考え、将来を見据え、いかにライオンズクラブの在り方を変えていくにはどうすべきかを各クラブで検討していくことが必要な1年でありました。SNSを活用した理事会や例会を開催し、普段の例会では細かく説明できていない内容を文字にし活動の報告をすることで、各会員の理解を深めてもらう努力をすることなど、現状で出来ることはなんでも試していくという気持ちをもって進んでいけば、その会には明るい未来が待っていると考えます。

**紀伊田辺LC 森本 泰弘**

新型コロナウイルス感染症の中、まず必要になってきたのは装備です。マスク、消毒液、体温計の準備をし、できるだけ三密を避けるという条件が必要となりました。コロナ感染拡大防止のため人との距離を取ることが求められ、対面での活動が基本的に難しくなりました。今現状では、現場での活動に合わせオンラインによる活動の組み合わせも考えていかなければいけない状況だと思えます。

当クラブでは、オンライン（ズームやメール）での活用がまだまだ遅れているように思われます。ITのツールをもっと活用し、活動の範囲を変えていくことも考えていかなければと思います。そして、これから大事なことはどんな形にしる、保険を掛ける必要があると思えます。

次年度におきましては、風評被害に惑わされず思いやりの心で楽しい居心地の良いクラブを目指していただきたいと思います。

**御坊LC 土井 光**

私達は、日々世間から「信頼されるクラブでありたい」また、メンバーにおいては、「クラブ活動に生きがいを感じてほしい」と考えて、活動してきました。

今年度はコロナ禍で、例年通りのアクティビティができなくなりました。私はこのままでは終わる訳にはいかないと思い、新しいアクティビティ【小学生むかしあそび体験】を実施することを決断しました。私は、メンバーに「ぜひ、やらせてほしい」と必死に訴え、納得され実施することが出来ました。コロナ禍で、薄氷を踏む思いでしたが、メンバー各自が想像以上に創意工夫して、大成功の結果を生みだしてくれました。

対象となった小学生、その保護者にも大変喜んでいただきました。

常に目標を設定し、目標に情熱を傾け実行し、世のため人のために尽くす志のクラブを目指してもらいたい。

**南部LC 中内 毅**

コロナ禍の中でドロップが多い中、クラブ運営に必要な会員増をどう図っていくか問われていると思えます。奉仕は大切な事ですし最終目的でもありますが、あまり型にはまらず、趣味、遊び仲間をシフトした形の入会方法もあるのでは。

コロナが終息して楽しめるワクワクする例会をいかに企画出来るかが大切。

**田辺LC 中田 充哉**

ライオンズクラブの今後はなかなか厳しいものがあると思えます。それは田舎では特にですが、メンバーの勧誘が人口減少によりどんどん難しくなっていくからです。我々のようなライオンズクラブが長く生き残って行くには、今以上にメンバー相互の絆を深め、思いやりの気持ちを持って奉仕活動を進めていくしかないと思えます。そして一人でも多く今後のクラブの運営を担っていただける若い人材を仲間に入れていくしか方法はないと思えます。

**白浜南LC 堀本 哲也**

昨年、今年とコロナで経済活動全体がとても厳しい年となっています。ライオンズの奉仕活動や会議につきましてもかなり制限される状況ですが、この状況下においてもインターネットやゲームといった逆手にとれる分野は過去最高益を上げ経済をけん引している状況です。

ライオンズの活動も、アクティビティや会議、寄付までもが距離や時間の壁を越え、インターネットを使う方向に重心をシフトしていく事になると思えます。

手前みそにはなりますが、我が白浜南LCは今年インターネットで完結できるアクティビティを実施し、予定通り事業を行う事ができ、1つのモデルケースになったのではと考えています。

今は厳しい状況ではありますが、新しい取り組みにチャレンジするチャンスと捉え、変化に対応し、共に進化していきましょう。

**御坊中央LC 新田 みどり**

長引くコロナ禍の中「今 出来る事を伝え 信頼結ぶWe Serve」をテーマに継続事業の他医療用手袋、熊野古道4王子看板寄贈等の事業を実施しました。

今期は、ままならない状況の中、地域には充分PR出来たと思っています。私は地域の子供達にライオンズクラブの活動をもっと知って頂き、その子供達将来ライオンズクラブに入会したいと思えるように、次年度クラブ会長様にも未来のメンバーに向けた奉仕事業やPR活動をして頂ければと思います。

**富田川LC 愛須 浩行**

コロナ騒動は全てを変えてしまいました。今まで正しいと思っていた価値観が大きく変わり、社会のルールも変わってしまいました。しかし、ライオンズクラブとして、地域の奉仕活動を地道に行う事に変わりはありません。今まで以上に地域に密着した活動が求められる事と思えます。

次年度では今年できなかった分も行ってほしいと思えます。

**新宮LC 村尾 久彦**

コロナ過の中、多人数が集まるイベントや、密になる会食などが避けられている。

又、多様性を求められている世情を考えると、これまでのような国際協会、キャビネット中心の活動様式ではなく、各クラブ事の地域の実情に寄り添った活動を模索し、行動して行く事がこれからのライオンズに必要なことではないかと思えます。

**勝浦LC 鶴殿 忠徳**

- ①世代交代でメンバー数が減少し、平均年齢が下がる時期を迎えているが、リーダーシップのある若手も育ちつつある。
- ②10年後、高速開通により大都市との所要時間が半分となり、産業構造の変革によりメンバーの職種も変わってくる。
- ③リモート業種メンバーも加入、若い親睦を主とするクラブに向かう。
- ④伝統的に、献本活動で図書館に贈呈・住民の声を冊子にまとめるなど、地域密着型のアクティビティが多く、次年度60周年の記念事業も同様に検討されている。

**串本LC 大江 規彦**

私のテーマは「繋げよう未来に」「今こそLIONS」絆と情熱でWe Serveでした。

コロナ禍で、8・9月に2例会を休会とさせて頂きましたが、休会により、私自身もLIONSの意識が薄れている事を感じ「今こそLIONS」を信じ屋外での作業例会を中心に行ってきました。

この1年で改めてLIONSはメンバーの絆が大切であり、やり続ける事が未来に繋がれると実感しました。

次年度は災害支援（アラート）に力を入れLIONSのWe Serveをもとに新メンバーの獲得を願いたいと思えます。

**東大阪LC 築山 義一**

ライオンズクラブもコロナ禍を体験し、個々それぞれが過去を重んじ、今できる事を考え、未来へ変革の橋渡しの時ではないでしょうか。

これまでのライオンズ、これからのライオンも「We Serve」の基、奉仕活動に邁進します。

**東大阪河内LC 岡本 洋幸**

ライオンズクラブの近い将来は、厳しい状況であると思えます。会員数は年々減少、活動の範囲もコロナ禍と重なり縮小せざるを得ないです。状況下でも熱意ある奉仕を続ける現在を、インターネットや実際の現場などを通し、今まで以上に認知して頂くことが大切です。将来へ決して絶やすことのないクラブにする必要があると思えます。幹事として、次年度会長を惜しみない協力のもと支え、共に氣勢ある活動をしていくとお約束します。

**大東LC 大野 明彦**

会長在任中は、コロナ禍の1年であったので、自粛・我慢の年でした。

これからのクラブ活動については、メンバー 1人1人が、増強に強い意識を持ち、ライオンとしての自覚と誇りの持てる会員を育てて欲しいと、次年度会長に期待します。

**東大阪南LC 寺尾 勇**

単独での奉仕活動には限界があるので、リジョン又はゾーン合同での事業を考えるべきと思えます。

**東大阪東LC 谷口 清治**

今年度40周年の節目を迎えるにあたり、メンバーから推挙され周年会長を受けさせて頂きましたが、日本を襲った新型コロナウイルスの蔓延により、計画しておりました様々な行事が中止になり、周年式典を次年度に持ち越す決断に至りました。周年事業は滞りなく実施できた事がせめてもの救いと存じます。次年度の会長には今年度のノウハウを生かしクラブ運営に携わって頂くようにバックアップさせて頂きます。

**四條畷中央LC 本保 真司**

・会員増強にあたって

会員の少ないクラブ、例会出席率の悪いクラブは活気が無いので、新会員が入りづらい。なのでクラブ統合したほうがいいと思えます。入会しても数年で退会が多いので、2年3年で役職を付けて使命感や、やりがいを感じてほしい。そうするとライオンズの仕組みも早く覚えられ、アクティビティの参加率も上がると思えます。会員増強するにも今のライオンズ（地域に寄りますが）は知名度とステータスが低いので、シナジーを目的としたアクティビティが必要だと思えます。



### 東大阪布施LC 岩下 登

例会でのZoomの併用。また、単独クラブのアクティビティに他クラブからの参加を積極的に促し、各クラブの特徴を生かした多様なアクティビティを展開し地域社会に貢献する。アラートは普段から社会福祉協議会との関係作りを進め、緊急時に対応できる準備を行う。それらを踏まえて次年度、当クラブは若手中心の執行部となります。委員会活動を活性化させ因習にとらわれない新たな事業を検討して頂きたいと思っています。



### 東大阪菊水LC 八木 勝治

コロナ禍で大変な状況下ではありますが、ライオンズクラブの一番の原点を、各クラブ・各メンバーが見つめ直す良い機会と捉え、変わらず存続することを願います。



### 東大阪楠LC 水戸 寛

当クラブも例外なくコロナ禍の中、クラブ活動や奉仕活動の中止を余儀なくされました。今後はIT活用が必須と強く感じています。次年度は、IT(操作)勉強会など、全メンバーが活用できるよう、進めて頂きたいと思えます。IT化が進めば、コロナ禍云々ではなく、例会はWEBに常時発信することで、忙しくて出席できない人も例会に参加できる。近い将来には地域や場所、クラブの垣根を越え、幅広く実りある活動ができるのではないかと思います。



### 東大阪大東礫LC 田中 忠和

コロナ禍において、人との関わりやコミュニケーションの機会が大幅に制限され従来大切であったつながりが希薄化されていく中、ライオンズクラブはその意義目的を今一度見直し、今まで以上に地域社会と密接に結びつき、不要不急ではなく、なくてはならない存在となるべく創意工夫しながら世の中の変化に対応し、活動の幅を広げていく必要があると思われまます。



### 八尾LC 伊藤 嘉宏

クラブ数よりも1クラブの規模を大きくなってほしいと考えます。メンバーの拠出金(会費を含め)の中で運営費を占める割合を抑え事業に対する割合を増やすことができます。その結果、LC1フォワードを進めライオンズクラブの存在を社会に認知され、メンバーに誇りが生まれます。ぜひそんな団体になってほしいです。



### 柏原LC 増井 敬司

ライオンズクラブの活動は派手なものとは一般には思われているようですが、駅前の除草、大和川河川敷の清掃、献血奉仕等地道な活動が基本になっています。会長を拝命して1年、経験豊富なメンバーから話を聞いたり、助言をもらったり、聡明な若手メンバーからも学ぶべき内容が多く、このような交流を通し改めて自分本位ではなく、これからも『助け合いながら』活動するというのがクラブ本来の姿であることを確信致しました。



### 松原LC 森田 政春

今期は新型コロナウイルスの感染拡大により、理事会や例会の開催が困難となり、ライオンズクラブの活動の根幹であるアクティビティも思うように実施できませんでした。このような状況下では、メンバー同士が積極的に意思疎通を図り、今できることを模索することが重要です。対面での議論が難しい場合はLINEやZoomなどを活用し、時代に即した新しいニーズに対応する奉仕活動を行うことで、よりよい社会が創造されると考えます



### 八尾中央LC 吉田 勝利

今期は、新型コロナ感染状況を報道で注視し、予測し各行事の開催の安否に気を使った1年と成りました。開催出来た様々な事業から学んだ事は、そこに足を運び目を合わせ雑談を交わし合う事がいかに重要な事であるかを痛感致しました。そして出来ないを決めずにどうすれば出来るかに執念を持って取組めば、多くの同志に応援して頂けた最高の宝の1年に成りました。この経験を、まだ続くコロナ禍に悩む次期会長を全力でサポートします。



### 八尾菊花LC 山中 伸二

・女性の正会員が増加し、会員数の半数を占めるようになる。  
・会員の平均所得は減少し大衆化する傾向になる。  
・例会はインターネットを利用したバーチャルなものになる。  
以上の変化についていけないクラブは自然淘汰されていく。  
・若い起業家が増え、平均年齢は下がると思われる。  
・アクティビティは労力奉仕が多くなり直接的な経済的支援は減る。



### 富田林LC 山田 泰弘

現在、このコロナ禍で今まで行っていた奉仕活動は、形態を変えざるを得ない状況が続いています。本来、奉仕活動は安心・安全を与える活動ですが、人との接触がリスクとなる現在では、従来の活動を見直さなくてはなりません。ITやリモートを活用した奉仕活動や広報活動、また行政と連携した地域に必要とされる奉仕を積極的に進め、時代に合った奉仕活動に変化させなければライオンズクラブとしての存続は難しくなると思っています。



### 羽曳野LC 田中 一輝

今年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本来の活動が制限される状況が続いて参りました。活動が制限される中、私たちは、大切なものを失っています。それは、これまで続けてきた、人と人とのつながりや支えあい、ふれあいです。活動が制限される中でも、出来る活動を絶やすことなく、この状況下での正しい知識を持ち体制の構築や、様々な備えに取り組むことが大切だと思います。又他クラブとの連携を深めるためにもデジタル化(テレワークの導入)を進め、環境変化に合わせて行動を変化させる必要があると思っています。



### 河内長野LC 土井 昭

ライオンズクラブは、世界平和と国際親善を願い、災害援助、人道支援、青少年支援、食糧支援、環境保全等の様々な奉仕活動を実践してきました。ライオンズの未来予想図は、恒久的な国際的規模での社会奉仕活動の推進と変化の時代に対応していける柔軟なクラブ組織に変革することだと考える。その目的を達成するために、クラブの活性化と同時に、質の高い会員拡大を計ることを次年度会長には期待したい。



### 藤井寺LC 清水 証人

経済成長期を終え成熟期を迎えた日本。集団の利益よりも個の幸せを追求する時代。SNSの浸透やAIの進歩がそれに拍車をかけているように思います。奉仕の心という個の幸せを、如何に裾野を広く浸透出来るか。ライオンズの未来はその一点のみ。期待しています。



### 堺美原LC 米谷 文克

コロナ禍の中、十分な活動が出来ませんでしたが、次年度CN50周年を迎えるにあたり、クラブ存続危機を脱する為、会員増強を行おうとメンバーに呼びかけをし、再入会を含め10名以上の入会予定者数となりました(次年度入会)。会員のみならず感謝申し上げます。事業においてはコロナ禍ではありましたが、(仮称)ライオンズ2号公園の清掃、又、(仮称)ライオンズ1号公園のサクラの消毒も、入会予定者のメンバー2人も参加して行いました。改めて新しい仲間を迎える新鮮さを覚えました。



### 大阪狭山LC 中野 学

地域に根差し、必要とされるクラブとして活動を続けています。次年度以降も継続して行う活動や事業は、現メンバーの知識経験、そしてこれからのメンバーに掛かっています。人を育て、楽しみを共有できるクラブをこれからも推進していきます。今年度は30周年の記念式典を執り行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により二度の延期となり開催を次年度に持ち越しました。新しい会員が多い中で、式典を行う大切さ(準備と式典運営)を知ってもらうためにも、式典の開催と記念事業の拡大を行います。



### 南大阪みささぎLC 岩朝 しのぶ

Covid19の影響で世界中の人々の暮らしは一変しました。私たちライオンズクラブの活動も、メンバーの経済状況、健康状況も影響を受けました。しかし、この大きなウイルス・インパクトにより気づきもたくさんありました。改めてライオンズクラブの必要性、尊さを感じたメンバーも多かったのではないのでしょうか。有事の時こそライオンズが必要です。私たち南大阪みささぎLCは「新生みささぎ」を掲げ、より一層のServeが出来るように、「We」仲間を拡げてまいります。社会の為に。未来の為に。